

## 2022年度 後期 市民開放授業 募集案内

市民開放授業は、新型コロナウイルスの影響により 2020～2021 年度は中止しました。  
2022 年度は新型コロナウイルス感染症状況下での初めての実施になります。  
感染防止対策の徹底等により小規模開催になりますがご了承ください。

### 目 次

I 実施形態	1
II 受講手続	2
III 受講に際して	4
IV 「市民開放授業一覧」・「シラバス」について	6
市民開放授業一覧	7
◎ 後期開講授業	
・松本キャンパス	
全学教育機構	
人文学部	
経法学部	
・長野（教育）キャンパス	
教育学部	
交通のご案内	9
シラバス（授業内容の紹介）	11

信州大学では、正規の学生のために開講している通常の授業を可能な限り開放し、学生と一緒に受講したいと思う一般市民（高校生を含みます）の方々を受講生として募集します。

これは、信州大学が行う大学開放活動の一環で、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域社会の連携をより一層深めていくことを目的としたものです。

受講するにあたっては、事前に応募していただく必要があります。本学の学生や教職員とキャンパス・ライフをお楽しみください。

## I 実施形態

### ■ 開講期間及び授業時間

- 後期開講授業 2022年9月下旬から2023年1月まで  
※休業日・振替授業日等があります。必ず学年暦（受講決定者に後日送付）をご確認ください。

- 授業開始日

学部等	授業開始日	
	後期	
全学教育機構	9月26日（月）	
人文学部		
経法学部		
教育学部	9月30日（金）	

- 授業時間

※新型コロナウイルス感染症の影響で、午後の授業時間を30分繰り下げて実施しています。

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	9:00～ 10:30	10:40～ 12:10	13:30～ 15:00	15:10～ 16:40	16:50～ 18:20	18:30～ 20:00

- 授業時間【教育学部】

※2019年度より教育学部のみ100分授業に変更になりました。

時 限	1	2	3	4	5	6
時 間	8:40～ 10:20	10:30～ 12:10	13:00～ 14:40	14:50～ 16:30	16:40～ 18:20	18:30～ 20:10

- 開放授業、受講学部、講義室、募集人数等  
「市民開放授業一覧」（7ページ）のとおりです。

## Ⅱ 受講手続

### ■ 受講手続の流れ

以前までの受講手続と方法が異なりますので、ご注意ください。  
試験期間は設けませんので、シラバス（授業内容の紹介 11 ページ～）を参考にし、以下のとおり応募期限までにご応募ください。

#### ① 応募方法

##### (1) ハガキでの方法

ハガキ裏面に以下の【必要事項】を明記の上、「信州大学 学務部学務課教務グループ」（〒390-8621 松本市旭 3-1-1）宛にお送りください。

##### (2) メールでの方法

メールの件名は「市民開放授業申込み」として、以下の【必要事項】を明記の上、「shimin@shinshu-u.ac.jp」宛にお送りください。

#### 【必要事項】

- ①郵便番号と住所 ②氏名 ③電話番号 ④メールアドレス（携帯電話以外）  
④「2022年度後期市民開放授業 希望授業」

- ・ハガキとメール以外による受付はしません。
- ・1授業につき、一人1通にしてください。
- ・1通につき、記入する授業は1授業にしてください。
- ・1授業につき複数の応募や必要事項の記載がないものは、無効となる場合があります。

**応募期限 2022年8月25日（木）（必着）**

#### ② 受講者の決定

応募多数の授業の場合は抽選で受講者を決定し、結果は応募者全員に9月9日（金）までに郵送でご連絡します。

#### ③ 受講料納付・受講登録

受講決定者は、9月12日（月）～9月16日（金）の間に各キャンパスの受講窓口で、受講料を納付し受講登録してください。授業開始前の支払いになりますので、ご注意ください。

後期は初回の授業において、e-Learning システム「eALPS」（次ページ参照）を利用したオンライン授業が多くあるため、受講料の支払いを授業開始前に設定し、初

回から「eALPS」を利用できるようにしました。

「eALPS」とは、インターネットを利用した受講方法で、**ご自身でインターネットができるパソコンを用意しアクセスしていただく必要があります。**

**オンライン授業は、ご自宅等の大学以外の場所で受講してください。**

初回に「eALPS」を利用するオンライン授業については、「市民開放授業一覧」（7ページ）をご覧ください。「eALPS」の詳細は、『e-Learning「eALPS」を利用する授業』（5ページ）をご確認ください。

なお、パソコンの使用や操作方法、インターネット通信機器の接続や使用等に関することについては、ご自身でご対応をお願いいたします。

- ・受講料の納付は、受講するキャンパスごとになります。
- ・受講登録時に必要な書類等は、受講決定者へ郵送でお送りしますので、詳細はそちらをご確認ください。

### 【主な受講登録時に必要な書類等】

- ・市民開放授業受講届
- ・受講料 1 授業 9, 400 円（※一部例外あり）
- ・運転免許証、保険証、パスポート等の身分を証明できる書類
- ・受講証用写真（縦4 cm×横3 cm）1 枚（6ヶ月以内撮影）

※ 受講料が異なる授業については、「市民開放授業一覧」（7ページ）の「備考」欄に金額が記載されています。また、受講料以外に授業で使用するテキスト代、及び授業に係るその他の費用は、受講生のご負担となります。

なお、いったん納入された受講料は、返還できませんのでご了承ください。ただし、新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の都合で中止とする場合は、ご返金します。

受講料は、本学の運営費用にあてられます。

#### ④ 受講証の交付

受講登録が完了した方に正式な受講証をお渡しします。来学の際は携帯するようお願いいたします。

各期において複数の授業を受講する場合でも、受講証は1枚のみの発行となります。

#### ■ 受講窓口

下記の各キャンパス受講窓口(☆)で受講料の納付・受講登録をしてください。

**<登録受付時間> 8：30～17：00（土日、祝祭日を除く）**

不明な点は総合窓口までお問い合わせください。

◎ 松本キャンパス

〒390-8621 松本市旭3-1-1

☆市民開放授業 総合窓口

TEL：0263-37-2870

（全学教育機構1F 学務部学務課教務グループ）

※ なお、授業に関してのお問い合わせは、下記各学部等の窓口へ

全学教育機構	学務部学務課 共通教育支援室	TEL：0263-37-2978
人文学部	学務係	TEL：0263-37-2255
経法学部	学務グループ	TEL：0263-37-2304

◎ 長野（教育）キャンパス 〒380-8544 長野市西長野6のロ  
☆教育学部 学務グループ TEL：026-238-4057

■ 事前説明会は開催しません。

### Ⅲ 受 講 に 際 し て

■ 新型コロナウイルス等感染症対応のお願い

- ・ マスクの着用をお願いします。
- ・ 手洗いの励行をお願いします。
- ・ 消毒用アルコールが各教室等にありますので、ご利用ください。
- ・ 身体的距離の確保をお願いします。
- ・ 体調の悪い方、発熱している方は、出席をご遠慮いただきますようお願いいたします。
- ・ 基礎疾患等のある方は、慎重なご判断をお願いします。
- ・ 感染状況により、予定の変更や中止となる場合がありますのでご了承ください。中止の場合にはご返金します。

■ 試験、修了証について

- ・ 受講のための検定試験はありませんので、授業内容や難易度をご確認のうえお申し込みください。
- ・ 市民開放授業の受講生に、単位認定は行いません。
- ・ 受講を証明する修了証を希望される方は、出席日を記入した「受講修了証発行願」（受講決定者に後日送付）を学期終了時に受講窓口に提出してください。修了証の発行には、原則として試験期間を除く授業日の2/3以上の出席が必要となります。
- ・ 受講生は原則として定期試験を受ける必要はありません。
- ・ 単位認定を希望される場合は、「科目等履修生」の制度がありますので、料金その他詳細に関しては、各学部の学務担当係までお問い合わせください。

■ 図書館の利用

新型コロナウイルス感染症の影響で、図書館の利用については開講キャンパスにより対応が異なります。

詳細は受講決定者に後日お知らせいたします。

■ 信州大学生協同組合の利用

信州大学生協同組合に加入し、本の割引等のサービスを受けることができます。加入には出資金が必要ですが、脱退時には全額返還されます。

■ 受講生の呼び出し等

授業中その他受講生の呼び出しには対応できかねます。また、授業中は携帯電話等の電源をお切りください。

■ 受講の停止

受講にあたっては本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないように努めてください。また、授業担当教員の指示には従ってください。指示に従わなかったり、受講生としてふさわしくないと判断されたりした場合、受講を停止することがあります。

なお、受講停止の場合であっても、既納の受講料は返還できません。

■ 損害賠償

本学の施設、設備等を破損したときは、届け出てください。その損害を賠償していただくことがあります。

■ 授業の撮影・情報等について

授業担当教員の許可のある場合を除いて、授業の板書や投影される資料等を撮影したり、授業の内容を録音・録画したりすることはできません。また、著作権侵害に相当する場合がありますので、授業の情報を SNS 等に投稿してはいけません。

■ 通学方法等

各キャンパス（伊那キャンパスを除く）には駐車場がありませんので、公共の交通機関等をご利用ください。これに違反したトラブルや事故が起きた場合、大学側では責任を負いかねますのでご了承ください。

■ 休講情報等

休講、補講、教室変更等の連絡はキャンパス情報システム・公用掲示板によって行います。緊急の場合等にはできる限り電話等によりお知らせいたしますが、ご連絡できない場合もありますのでご了承ください。

なお、臨時休業日、振替授業日等が既に決まっている日がありますので、必ず学年暦をご確認ください。

■ e-Learning「eALPS」を利用する授業

授業によっては、オンライン授業や関連した資料や参考文献の紹介と配付、質疑応答、その他様々な諸連絡をインターネットを利用した「信州大学 eALPS」上で行うものがあります。「eALPS」の利用を申請する場合は、受講窓口までお願いします。登録には、多少の日数がかかる場合があります。

■ いただいた個人情報、市民開放授業の目的以外には使用しません。

■ 障害等で受講上配慮が必要な方は窓口でご相談ください。

#### IV 「市民開放授業一覧」・「シラバス」について（7ページ～）

##### ■ 「授業曜日・時限」

例1) 木3 : 木曜日の3時限(13:30～15:00)(教育学部は13:00～14:40)に開講します。

例2) 火1 } 週に2回授業があります。  
木3 }

例: 第1回9/27(火)1時限, 第2回9/29(木)3時限, 第3回10/4(火)1時限・・・

■ 講義室は受講者数等の関係で変更になることがありますので、変更の掲示や教員の指示にご注意ください。

■ 「難易度」は、授業の内容に応じて次の三段階に区分しています。

【A】: 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの  
(大学1年次対象の授業)

【B】: より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの (大学2～3年次対象の授業)

【C】: 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの (大学3～4年次対象の授業)

■ 受講料が「9,400円」以外の授業については、「備考」欄にその金額を記載してあります。

■ シラバス(授業内容の紹介)を掲載しますので参考にしてください。(11ページ～) シラバスの「授業題目」、「授業科目」は、「授業名」と同じことです。

<シラバス> <https://campus-3.shinshu-u.ac.jp/syllabusj/Top>

## <後期 市民開放授業一覧>

登録コード	授業名	担当教員氏名	曜日・時限	講義室	受入可能人数	難易度	備考
-------	-----	--------	-------	-----	--------	-----	----

### 【受講場所】全学教育機構

※全学教育機構の「初回の授業」は、「eALPS」を利用する非同期型オンライン授業になります。2回目からは「対面授業」です。

G1B10016	統計学入門	永井 康史	木3	全10	3	A	初回オンライン授業
G1B20009	Society 5.0の基盤技術の軌跡	不破 泰	木2	全12	3	A	初回オンライン授業
G1B30020	現代社会における人権	小池 洋平	水3	全12	3	A	初回オンライン授業
G2B40912	現代社会における統治機構	小池 洋平	水5	全12	3	A	初回オンライン授業
G2B41004	プログラミング入門	都築 幸宏	火4	全42	3	A	初回オンライン授業
G2B41113	国際理解と多文化共生を考えるⅡ	佐藤 友則	火5	全42	3	A	初回オンライン授業
G2B50303	ニューバイオテクノロジー入門	保坂 毅	火4	全10	3	A	初回オンライン授業

※人文学部の「初回の授業」は、「eALPS」を利用する非同期型オンライン授業になります。2回目からは「対面授業」です。

### 【受講場所】人文学部

ただし、授業によっては変更になる場合もありますので、その際は受講決定者へお知らせいたします。  
オンライン授業等の詳細については、人文学部学務係(0263-37-2255)までお問い合わせください。

L1133500	哲学・思想論特論Ⅴ	三谷 尚澄	金4	人1	3	B	初回オンライン授業
L1133800	哲学・思想論特論Ⅷ	早坂 俊廣	火2	人2	3	B	初回オンライン授業
L1134700	哲学・思想論基幹演習Ⅴ	三谷 尚澄	金2	人5	3	B	初回オンライン授業
L1142800	哲学・思想論発展演習Ⅷ	早坂 俊廣	木2	人2	3	C	初回オンライン授業
L1143100	哲学・思想論発展演習ⅩⅠ	護山 真也	水5	人3	2	C	初回オンライン授業
L2120200	中国語学概論Ⅱ	伊藤 加奈子	水3	人2	3	A	初回オンライン授業
L2140600	中国語学・中国文学発展演習Ⅵ	氏岡 真士	金2	人3	1	C	要予習復習 初回オンライン授業
L2232500	ドイツ言語文化特論Ⅴ	葛西 敬之	水3	人501	2	B	初回オンライン授業
L2330200	フランス言語文化特論Ⅱ	吉田 正明	月4	人401	3	B	初回オンライン授業
L2340300	フランス言語文化発展演習Ⅲ	吉田 正明	月3	人401	2	C	初回オンライン授業
L2430200	英語学特論Ⅱ	SPREADBURY ASH LEIGH	金2	人1	3	B	初回オンライン授業
L2532600	英語文学特論Ⅵ	趙 泰昊	木2	人1	1	B	初回オンライン授業
L2541500	英語文学発展演習Ⅴ	杉野 健太郎	火2	人3	3	B	初回オンライン授業
L2720200	日本語学概論Ⅱ	中澤 光平	木1	人4	3	A	初回オンライン授業



登録コード	授業名	担当教員氏名	曜日・時限	講義室	受入可能人数	難易度	備考
L2730200	日本語学特論Ⅱ	中澤 光平	木4	人212	3	B	初回オンライン授業
L2820200	日本語教育学概論Ⅱ	坂口 和寛	木1	人1	3	A	初回オンライン授業
L2840100	日本語教育学発展演習Ⅰ	坂口 和寛	金3	人5	3	C	初回オンライン授業
L2840400	日本語教育学発展演習Ⅳ	坂口 和寛	金4	人5	3	C	初回オンライン授業
L2960700	書道芸術Ⅱ	大島 武	月3 月4	人2	3	A	13,400円 初回オンライン授業
L2961700	英語ライティングⅡ	GRAY DAVID JOHN	木1	人202	3	C	初回オンライン授業
L2962900	フランス語コミュニケーション 中級Ⅱ	吉田 正明	木2	人401	2	B	初回オンライン授業
L2963100	フランス語コミュニケーション 上級Ⅱ	KOSHIKAWA MALAURIE	金2	人401	3	B	初回オンライン授業
L2963300	中国語コミュニケーション中 級Ⅱ	LI DANDAN	水2	人202	3	B	初回オンライン授業
L2963500	中国語コミュニケーション上 級Ⅱ	閻 小妹	木4	人202	3	C	初回オンライン授業
L2963700	英米文化事情Ⅱ	VAN DEN BERGH PETER CHARLES	月2	人1	3	C	初回オンライン授業
L2964100	東洋文化事情Ⅱ	島崎 朋子	月5	人1	3	B	初回オンライン授業

**【受講場所】経法学部**

※経法学部の授業は、すべて対面授業になります。

J5020300	ファイナンス応用	都築 幸広	水1	経401	3	C	
J5130300	医療経済学	増原 宏明	火1 木3	経3	3	C	13,400円
J5240300	開発経済学B	ZHAI YALEI	木2	経401	3	C	

**【受講場所】教育学部**

※教育学部の授業は、すべて対面授業になります。

E2014900	古典文学史	西 一夫	火5	教N201	3	A	
E2365900	地史学	竹下 欣宏	火3	教W503	3	B	

## 信州大学への交通のご案内

### <全学教育機構・人文学部・経法学部> 松本市旭3-1-1

- ・JR松本駅「お城口（東口）」を出て右前方、アルピコバス「松本バスターミナル」のりば1「信大横田循環線」、または「浅間線」に乗車し約15分、バス停「信州大学前」で下車して道路向かいに大学正門があります。
- 人文学部・経法学部・全学教育機構・附属図書館へは、次のバス停「大学西門」下車が便利です（どちらも200円）。



## 信州大学への交通のご案内

### <教育学部> 長野市西長野6-0

- ①JR 長野駅善光寺口1番のりばで、アルピコバス「善光寺大門行（びんずる号）」、「善光寺經由宇木行」, 「善光寺・西条經由若槻東条行」, 「善光寺・若槻団地經由若槻東条行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「花の小路」下車（徒歩5分）。
- ②JR 長野駅善光寺口4番のりばで中心市街地循環バス『ぐるりん号』に乗車（15分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩1分）。
- ③JR 長野駅善光寺口7番のりばで、アルピコバス「県道經由戸隠中社行」, 「鬼無里行」, 「川後經由滝屋行」のいずれかに乗車（10分）、バス停「信大教育学部前」下車（徒歩1分）。



時間割コード	G1B10016	開講年度	2022		
授業題目	統計学入門			担当教員	永井 康史
英文授業名	Introduction to Statistics				
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜, 3時限
講義室	共通教育10講義室		授業形態	講義	備考
					対象学生 全
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素          ・【2020年度以降加わらぬ対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力  <b>【授業の達成目標】</b>          ・確率・統計のごく基本的な概念について理解できる。  <b>【授業のねらい】</b>          確率論と記述統計、推測統計の考え方の基礎部分を理解することを目標とする。ただ単に計算ができるようになるだけでなく、諸概念を理解することで基礎的な教養を得る。</p> <p>(2)授業の概要          まず記述統計を扱い、表やグラフ、平均や標準偏差を用いてどのようにデータを整理して情報を引き出すか勉強する。次に確率論の基礎的な考え方について述べ、大数の法則と中心極限定理について学ぶ。重要な確率分布として正規分布とt分布、カイ二乗分布も学ぶ。その後推測統計について習熟する。すなわち、知りたい対象の一部分のデータしか得られない場合に、どのように対象全体の性質について推測するかという問題を、区間推定を解説することにより学ぶ。</p> <p>(3)授業のキーワード          記述統計、推測統計、確率、正規分布、区間推定</p> <p>(4)授業計画          1. ガイダンス          2. 度数分布表とヒストグラム          3. 代表値          4. 標準偏差とデータの標準化          5. 確率変数          6. 確率変数の期待値と大数の法則          7. 連続型の確率分布          8. 正規分布と中心極限定理          9. t分布とカイ二乗分布          10. 推測統計と区間推定の基本的な考え方          11. 母分散が既知の正規母集団の母平均の区間推定          12. 母分散が未知の正規母集団の母平均の区間推定          13. 正規母集団の母分散の区間推定          14. 母比率の推定          15. t検定（授業アンケート実施）          16. 期末試験</p> <p>(5)成績評価の方法          中間レポートと小テスト（40%）、期末試験（60%）による。</p> <p>(6)成績評価の基準          試験や中間レポート、小テストでは、授業を通して学んだ統計学のごく基本的な概念について理解しているかを確認する。教科書の練習問題や配布する問題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある（可）」、応用問題が解ければ「やや上にある（良）」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある（優）」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している（秀）」である。</p> <p>(7)事前事後学習の内容          事前には教科書を読んでおくこと。授業では教科書に書かれていない内容を扱うことがあるため、事後には板書を写したノートを参照して復習し、さらに例題や教科書の問題を自分の力で解いてみることを。この授業は90時間の学習を必要とする内容である。従って、60時間以上の時間外学習が必要となる。</p> <p>(8)履修上の注意          授業では教科書に書かれていない内容を扱うことがある。また、教科書の順番通りには進まない場合がある。中間レポートと小テストを随時行う。中間レポートは第5週頃の提出だが、時期は前後する可能性がある。これらに加えて、期末試験を行う。          授業に必ず出席して、教科書に書かれていない解説を聞き逃さないこと。ただ板書を写すだけでなく、解説をよく聴き理解を確かめながら授業に臨み、分からないところは授業後に質問すること。          教科書と公開する講義ノートを読み、期末試験までに練習問題を全て解いておくこと。</p> <p>(9)質問、相談への対応          随時対応する。研究室は全学教育機構北棟3Fである。          またメールアドレスはynagai@shinshu-u.ac.jpである。          （授業の内容に関する質問はメールではなく直接すること。）</p>					
<p><b>【教科書】</b>          小島寛之、完全独習 統計学入門、ダイヤモンド社、1800円＋税、ISBN4-478-82009-0  <b>【参考書】</b></p>					

時間割コード	G1B20009	開講年度	2022				
授業題目	Society 5.0の基盤技術の軌跡				担当教員	不破 泰	
英文授業名	Progress of Basic Technologies to Achieve Society 5.0						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜, 2時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力 ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組みむ 【授業の達成目標】 ・今の社会の基盤となる通信技術や文化はどのようにして創られてきたのかを知ることで、これから学びやがて研究をするうえで必要な想像力を獲得します。 ・Society5.0とは、これから世界が目指す新しい社会の姿であり、ネットワークの歴史をとおして、これからの社会を考える力を養います。 【授業のねらい】 Society5.0とは、これから世界が目指す新しい社会の姿であり、その基本はネットワークです。 このネットワークがこれまでどのように開発され、進化してきたのか、その歴史を通して、Society5.0の社会を考えます。 文系・理系を問わず、今の社会は通信技術なしには成り立ちません。その技術や文化はどのようにして創られてきたのかを知ることは、これから学びやがて研究をするうえで有用な事です。</p> <p>(2)授業の概要 Society5.0の基盤であるネットワークがこれまでどのように進化してきたのか、その歴史を振り返ります。 授業では技術の紹介は最小限にとどめ、何故そのような技術が必要とされたのか、どのような経緯でその技術が開発されてきたのか、その結果どのようなネットワークが生まれてきたのかについて、歴史を語りながらネットワークの理解を深めます。</p> <p>(3)授業のキーワード Society5.0、ネットワーク、通信の標準化、無線ネットワーク、インターネット、セキュリティ</p> <p>(4)授業計画 (1)ガイダンス 授業の概要と受講方法について説明します。 15回の授業を通し、7つのテーマを提示します。 各テーマは2週で学び・課題について調べ・結果を提出してもらいます。</p> <p>(2)(3)[テーマ1]通信とは 通信とは何か：離れた地点に情報を送る事です。 最初の通信方法は狼煙です。この狼煙から通信の基本を概観します。 そして、ここから電気通信、光通信、無線通信が始まります。</p> <p>(4)(5)[テーマ2]通信とコンピュータとの出会い コンピュータとの出会いが通信の役割を飛躍的に拡大させました。 初期のネットワークは、[大型コンピュータ]と[端末]とをケーブルで接続して文字を送るものでした。 やがて、マイクロプロセッサの進展で端末が処理能力では大型コンピュータと変わらなくなりました。 すると、端末どうして情報を交換したします。 その中で、ネットワークはどう変わっていったのでしょうか。</p> <p>(6)(7)[テーマ3]無線ネットワークの出現 初期の電気通信ネットワークは、ケーブルを使った有線でした。 でも、利便性を考えると、無線の活用が有効です。 特に、様々な地域のセンサー情報を集めたり、人が端末を持って移動する場合は、無線が必須です。</p> <p>(8)(9)[テーマ4]通信方式の転換 従来の通信は、使用時間により利用料金が決まる従量課金でした。 しかし、それでは24時間常に状況をセンシングして通信するような利用ができません。 また、時間を気にしながらインターネットを使うという事態になります。 ある発想の転換が、どれだけの時間つかっても料金が定額であったり、時間ではなく送るデータの量で通信料が決まる制度を実現します。 そこには何があったのでしょうか。</p> <p>(10)(11)[テーマ5]インターネットの出現 今や、生活のなかで欠かせざる存在のインターネットはどのように生まれてきたのでしょうか。 世界中の情報機器が繋がっているインターネットの世界を眺めます。</p> <p>(12)(13)[テーマ6]暗号技術 通信を社会基盤として使うためには、通信で安心して個人情報が送れたり、通信の相手が本当にあの人なのかを識別したりする仕組みが必要です。 そのために使われているのが暗号です。</p> <p>(14)(15)[テーマ7]Society 5.0 世界が目指すこれからの社会、Society5.0を概観します。 その基盤技術はIoT, AI, 5Gです。 どんな社会が始まるのでしょうか。 *なお、最後に授業アンケートを実施します。</p> <p>(5)成績評価の方法 授業では、2週ごとに7つのテーマを取り上げ、各テーマ毎にレポート課題を出します。 最初に7つあるテーマ毎に担当学生の割り当てを行います。 そして、各テーマの1週目に、そのテーマの担当となっている学生の皆さんにレポートを提出してもらいます。 その皆さんの提出レポートに対するコメントを2週目に説明しますので、全ての学生はこれを参考にして2週目の終わりまでにレポートを完成させ、提出してもらいます。 その結果から成績を判定します。</p> <p>(6)成績評価の基準 提出されたレポートについて、次の観点で採点をします。 ・授業で述べたネットワークの歴史についての的確な理解 ・それぞれの技術開発が何を目的としてどのような工夫で成し遂げられたのかについての正しい理解 ・それらを通じて、ネットワークを利用して実現するSociety5.0の社会像を自ら創造できるか</p> <p>(7)事前事後学習の内容 事前学習：各テーマの概要はeALPS上で公開しますので、概要をインターネットを用いて調べてください 事後学習：授業で紹介された個々の技術について、eALPSの資料およびインターネットを用いて社会でどのように使われているかを調べてください この授業は、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意 単に授業を聴くのではなく、授業を通してネットワークについての理解を深めるとともに、その理解を基にあたらな社会を創造できることが求められます。そのためには、予習・復習が欠かせません。</p> <p>(9)質問、相談への対応 質問や相談は原則として授業で受け付けるとともに、メールでも受け付けます。 メールアドレスは、fuwa@shinshu-u.ac.jp です。</p> <p>【教科書】 指定しない 【参考書】 指定しない</p>							

時間割コード	G1B30020	開講年度	2022				
授業題目	現代社会における人権				担当教員	小池 洋平	
英文授業名	Human Rights in Contemporary Society						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜, 3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素          ・【2020年度以降加付対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力          ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力          【授業の達成目標】          ・ 日本国憲法が保障する基本的人権について正確な知識を習得し、それを他者に説明できるようになる。          ・ 日本国憲法が保障する基本的人権を出発点として、社会で実際に起こっている人権問題について、妥当な解決策を主体的に探究することができる。</p> <p>【授業のねらい】          この授業では、日本国憲法が保障する基本的人権について正確な知識を修得することと、この授業で得た知識を活かして人権に関わる問題を発見・分析し、多様性のある社会の構築を目的として行動することができるようになることをねらいとします。</p> <p>(2)授業の概要          この授業では、基本的人権に関わる時事問題を素材とし、基本的人権の視点からそこに含まれる問題点を浮かび上げさせ、みなさんと解決方法を考えていきます。          まず、現代社会で生じている人権問題を概観した上で、基本的人権の基本的コンセプトを解説します。そして、平等や思想・良心の自由などに関する時事問題を取り上げ、それら問題の背景と論点を提示しつつ、人権の観点からいかなる解決策があるのかを探究します。</p> <p>(3)授業のキーワード          人権、憲法、憲法訴訟、時事問題、課題発見・解決、論理的思考</p> <p>(4)授業計画          第1回 イントロダクション：現代社会で生じている人権問題とは？【非同期型オンライン】          第2回 基本的人権というコンセプト          第3回 人権の限界はどこにあるのか？          第4回 法の下での平等(1)平等って何だろう？          第5回 法の下での平等(2)平等を巡る人権問題          第6回 ココロと自由(1)思想・良心の自由って何だろう？          第7回 ココロと自由(2)思想・良心の自由を巡る人権問題          第8回 表現活動と自由(1)人間にとって表現とはどんな意義があるのか？          第9回 表現活動と自由(2)表現の自由を巡る人権問題          第10回 経済と人権(1)財産権          第11回 経済と人権(2)貧困と人権          第12回 身体と自由(1)奴隷的拘束からの自由          第13回 身体と自由(2)勝手に拘束されない自由          第14回 憲法に書かれていない人権(1)自己決定権          第15回 憲法に書かれていない人権(2)プライバシー権 / 授業評価アンケート</p> <p>(5)成績評価の方法          平常点(45点満点)とレポート(55点満点)を総合して成績を評価する。          ・平常点の評価方法          授業中に人権に関わる問題を提示するので、それに対する自分の考えをリアクションペーパー、もしくは、ショート・ディスカッションの形で答えてもらう。なお、単に出席しているだけでは加点しないので注意すること。          ・レポートの評価方法          授業で扱ったテーマから一つ選び、授業内容の要約と自分の考えを2500字程度でまとめてもらう。</p> <p>(6)成績評価の基準          ・平常点の評価の基準          授業目標 の達成度を測るため、次の基準で評価する。          授業中に提示された人権問題について、自らの考えを主体的に組み立て、それを文章化することができる(各回3点×15回)。          ・レポートの評価の基準          授業目標 と の達成度を測るため、次の基準で評価する。          授業の内容を正確に理解することができる(15点)。          授業の内容を踏まえて、人権問題を適切に把握することができる(15点)。          授業の内容を踏まえて、自らの考えを論理的かつ説得的に展開できている(15点)。          授業で紹介された文献や資料などを読み、それらを踏まえて、自らの考えを論理的かつ説得的に展開できている(10点)。          ・合計点が90点以上で「卓越している」、80-89点で「かなり上にある」、70-79点で「やや上にある」、60-69点で「その水準にある」と評価する。</p> <p>(7)事前事後学習の内容          この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間の時間外学修が必要となります。          ・事前学修          事前に資料を熟読し、分からなかった部分に印を付けておく(毎週1時間)。          ・事後学修          資料やノートを見直しながら、正確な知識が身についているかを確認する(毎週1時間)。          ・レポート作成          レポート作成のために文献や資料を収集・読解・分析する(毎週2時間)。          ・その他          新聞やTV/ネットニュースなどメディアに目を通し、社会のなかでどのような人権問題が生じているのかを日常的にチェックする(毎日1時間)</p> <p>(8)履修上の注意          この授業では時事問題を多く扱います。日頃からメディアをチェックするのはもちろん、図書館などで積極的に情報を収集するようにしてください。</p> <p>(9)質問、相談への対応          ・質問がある場合は、eALPSに設置してある「質問コーナー」にご投稿ください。受講生全体で共有すべき質問の場合は、次回の授業で回答します。          ・授業前や授業後でも教室で質問を受け付けますので、気軽に声をかけてください。          ・その他の時間に質問や相談をしたい場合は、研究室までお越しください。オフィスアワーは飛び入りでも可能ですが、別の相談者がいらっしゃる場合はお待ちいただくかもしれません。研究室にお越しになる場合は、事前に口頭もしくはメールでご連絡いただくと確実です。研究室の場所、メールアドレスは初回の講義でお伝えします。</p> <p>【教科書】          指定しない。          【参考書】          参考書については授業中に紹介します。</p>							

時間割コード	G2B40912	開講年度	2022			担当教員	小池 洋平
授業題目	現代社会における統治機構						
英文授業名	System of Government in Contemporary Society						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜, 5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 1 2 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素          ・【2020年度以降加付対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力          ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力          【授業の達成目標】          ・日本国憲法が定める統治の仕組みについて正確な知識を習得し、それを他者に説明できるようになる。          ・日本国憲法が定める統治の基本原則を出発点として、社会で実際に起こっている統治に関わる問題について、妥当な解決策を主体的に探究することができる。          【授業のねらい】          この授業では、日本国憲法が定める統治の仕組みと基本原則について正確な知識を修得することと、この授業で得た知識を活かして統治に関わる問題を発見・分析し、多様性のある社会の構築を目的として行動することができるようになることをねらいとします。</p> <p>(2)授業の概要          この授業では、統治に関わる時事問題を素材とし、日本国憲法が定める統治の基本原則からそこに含まれる問題点を浮かび上げさせ、みなさんと解決方法を考えていきます。          まず、現代社会で生じている統治に関わる問題を概観した上で、日本国憲法が定める統治の基本原則を解説します。そして、国会・内閣・裁判所に関する時事問題を取り上げ、それら問題の背景と論点を提示しつつ、統治の基本原則の観点からいかなる解決策があるのかを探究します。</p> <p>(3)授業のキーワード          統治の仕組み、憲法、時事問題、課題発見・解決、論理的思考</p> <p>(4)授業計画          第1回 イントロダクション：現代社会で生じている統治に関わる問題とは？【非同期型オンライン】          第2回 統治の基本原則(1)基本的人権の尊重：統治の目的          第3回 統治の基本原則(2)平和主義：憲法9条の意味          第4回 統治の基本原則(3) 国民主権：国民に主権があることの意味          第5回 国会(1)国会とはどのような機関か？          第6回 国会(2)全国民の代表者としての国会議員          第7回 選挙制度(1)選挙の仕組み：選挙とデモクラシーの形          第8回 選挙制度(2)選挙の基本原則：低投票率問題をどうするか？          第9回 内閣(1)内閣とはどのような機関か？          第10回 内閣(2)議院内閣制：内閣総理大臣を選挙する？          第11回 財政民主主義：不健全な財政？          第12回 裁判所(1)裁判所とはどのような機関か？          第13回 裁判所(2)違憲審査制：違憲審査の対象と限界          第14回 地方自治：民主主義の学校としての地方自治          第15回 象徴天皇制：「象徴」とは何か？ / 授業評価アンケート</p> <p>(5)成績評価の方法          平常点（45点満点）とレポート（55点満点）を総合して成績を評価する。          ・平常点の評価方法          授業中に統治に関わる問題を提示するので、それに対する自分の考えをリアクションペーパー、もしくは、ショート・ディスカッションの形で答えてもらう。なお、単に出席しているだけでは加点しないので注意すること。          ・レポートの評価方法          授業で扱ったテーマから一つ選び、授業内容の要約と自分の考えを2500字程度でまとめてもらう。</p> <p>(6)成績評価の基準          ・平常点の評価の基準          授業目標 の達成度を測るため、次の基準で評価する。          授業中に提示された憲法問題について、自らの考えを主体的に組み立て、それを文章化することができる（各回3点×15回）。          ・レポートの評価の基準          授業目標 との達成度を測るため、次の基準で評価する。          授業の内容を正確に理解することができる（15点）。          授業の内容を踏まえて、統治に関わる問題を適切に把握することができる（15点）。          授業の内容を踏まえて、自らの考えを論理的かつ説得的に展開できている（15点）。          授業で紹介された文献や資料などを読み、それらを踏まえて、自らの考えを論理的かつ説得的に展開できている（10点）。          ・合計点が90点以上で「卓越している」、80 - 89点で「かなり上にある」、70 - 79点で「やや上にある」、60 - 69点で「その水準にある」と評価する。</p> <p>(7)事前事後学習の内容          この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間の時間外学習が必要となります。          ・事前学習          事前に資料を熟読し、分からなかった部分に印を付けておく（毎週1時間）。          ・事後学習          資料やノートを見直ししながら、正確な知識が身についているかを確認する（毎週1時間）。          ・レポート作成          レポート作成のために文献や資料を収集・読解・分析する（毎週2時間）。          ・その他          新聞やTV / ネットニュースなどメディアに目を通し、社会のなかでどのような統治に関わる問題が生じているのかを日常的にチェックする（毎日1時間）</p> <p>(8)履修上の注意          この授業では時事問題を多く扱います。日頃からメディアをチェックするのはもちろん、図書館などで積極的に情報を収集するようにしてください。</p> <p>(9)質問、相談への対応          ・質問がある場合は、eALPSに設置する「質問コーナー」にご投稿ください。受講生全体で共有すべき質問の場合は、次回の授業で回答します。          ・授業前や授業後でも教室で質問を受け付けますので、気軽に声をかけてください。          ・その他の時間に質問や相談をしたい場合は、研究室までお越しください。オフィスアワーは飛び入りでも可能ですが、別の相談者がいらっしゃる場合はお待ちいただくかもしれません。研究室にお越しになる場合は、事前に口頭もしくはメールでご連絡いただくと確実です。オフィスアワー、研究室の場所、メールアドレスは初回の講義でお伝えします。</p>							
<p>【教科書】          指定しない。          【参考書】          参考書については授業中に紹介します。</p>							

時間割コード	G2B41004	開講年度	2022			担当教員	都築 幸宏
授業題目	プログラミング入門						
英文授業名	Introductory Programming						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜, 4時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 2 講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい  授業で得られる「学位授与の方針」要素  ・【2020年度以降加わらぬ対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力  【授業の達成目標】  ・プログラミング言語が一定程度使えるようになる。  【授業のねらい】  学部や大学院などで行われる講義や研究を見据えて、プログラミング言語が一定程度使えるようになる。</p> <p>(2)授業の概要  最も広く使われているプログラミング言語Javaを通じて、プログラミングの基礎を学習する。まず基礎的な文法を習得し、次にメソッドを使いある程度大規模なプログラミングを書くことの練習を行う。またプログラミング言語の比較として、代表的なスクリプト言語Rubyの解説も行う。授業の形式は、毎授業の前半に講義を行い、後半は実習を行い自らの手でプログラムを書くことでプログラミングの技術を向上させる。講義は教科書に沿って行うが、課題を通じて、独力で考えプログラミングを書く練習も行う。また、課題により技術の習得度を測る。担当教員がプログラミングの実務経験を活かして講義を行います。</p> <p>(3)授業のキーワード  プログラミング、Java、コンピュータ</p> <p>(4)授業計画  15週の中で以下の講義内容を想定している。  (1) 導入・インストール  (2) 変数と基礎的な演算  (3) 条件分岐 (if, switch)  (4) 繰り返し (for, while ループ)  (5) メソッド (関数)  (6) 配列  (7) 中間試験  (8) 中間試験の解説  (9) アルゴリズム  (10) 文字と文字列  (11) クラス  (12) ファイルの入出力  (13) Java の高度な機能  (14) Ruby  (15) まとめ  最後の授業(15回目)の最後の15分を授業アンケートに回答するための時間とします。</p> <p>(5)成績評価の方法  課題と中間・期末試験をもって評価する。  中間試験(10%) + 課題(40%) + 期末試験(50%)</p> <p>(6)成績評価の基準  講義で説明した例題と同程度の問題が解ければ、「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。</p> <p>(7)事前事後学習の内容  プログラミング演習を事前事後学習として行う。   この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意  授業は、プログラミング言語Javaとその開発環境であるEclipseを各自のPCにインストールし、実習形式で行う。初回の授業は講義を行うので、事前にインストールする必要はない。</p> <p>(9)質問、相談への対応  質問や相談は授業中、授業後、オフィスアワー(火曜日13:00-15:00)、またはメール(yukihirotsuzuki@shinshu-u.ac.jp)にて対応する。</p>							
<p>【教科書】  Javaで入門 はじめてのプログラミング: 基礎からオブジェクト指向まで  飯塚 泰樹 (著), 大森 康朝 (著), 松本 哲志 (著), 木村 功 (著), 大西 建輔 (著)  森北出版  【参考書】  なし</p>							



時間割コード	G2B41113	開講年度	2022				
授業題目	国際理解と多文化共生を考える				担当教員	佐藤 友則	
英文授業名	International Understanding and Multi-cultural co-living						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜, 5時限	対象学生	全
講義室	共通教育 4 2 講義室		授業形態	講義	備考	【地域】	
<p>(1)授業のねらい  授業で得られる「学位授与の方針」要素  ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力  ・【2020年度以降加付対象】的確に情報を収集し、理解し、発信する力  ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組み力  【授業の達成目標】  ・資料を探し、読み込み、それをベースにデータをまとめ、意見が書ける基礎学力。多文化共生という新しい知識を理解し、意見を述べられる専門的学力  ・移民受入に関する非常に多く多様な情報群から、妥当なものを選び出し、自分なりにまとめたり理解と認識し、自分なりのオリジナリティがある意見を話し、書ける能力  ・単一・自己満足・少子高齢化による日本社会の衰退が始まらぬよう、危機意識と未来への明るい展望を持って議論し、意見を固め、さらに自ら行動を始められる力  【授業のねらい】  この授業は、  世界および日本国内の多文化共生について学び、認識を深め、実際の行動に移せるようになる。： 65%  世界の多様な状況、考え方、問題点などを理解・認識し、一人の人間として世界の多くの国、文化の中で生きていく意味を考える。： 35%  ためものです。</p> <p>(2)授業の概要  留学生と日本人学生とで4-6人程度のグループを作ります。そのグループは1ヶ月ほどでメンバー交代をし、受講者は3つのグループを経験します。その週のテーマに関する情報を講師から得た後、グループ単位で「多文化共生」や「国際理解」に関するディスカッションを行い、お互いの情報・意見を交換し合うことで理解を深めます。日本の企業で勤務した経験のある教員が、その経験も活かして指導します。授業後には自分の意見を述べる課題が出ます。また、予習のために「eALPSの小テスト」が複数回実施されます。また、英語でディスカッションをするグループを作成します。英語でディスカッションしたい人も受講してください。2021年後期の受講者は全73名で、5,6名のグループを14作りしました。</p> <p>(3)授業のキーワード  グループワーク  COIL  コミュニケーション  多文化共生  読解  スキーマ  移民</p> <p>(4)授業計画  1. ガイダンス/ 多文化共生の基礎  2. 効果的な自己紹介/多文化共生 石野組  3. 外国人にとっての日本語  4. 多文化共生 自分の近くの外国由来の人  5. LGBTQ+とは？  6. 未婚社会  7. 多文化共生 国籍・アイデンティティ  8. ことばについて  9. 宗教って何？  10. 「読解」と外国との関わり  11. 多文化共生 外国由来の人への言語政策  12. ミャンマー・アフガンで平和・幸せを考える  (12/27, やすみ)  13&amp;14連続・多文化共生 移民との幸せな共生に必要なものは？  グループで協働してスライドを作成・提出・優れたスライドを後に発表  15. 多文化共生 2050年の日本は？： 最終課題を提示、2週間で提出  最後に授業アンケートを実施(15分)</p> <p>(5)成績評価の方法  ・通常課題： 20%  授業の最後に出される課題の提出率  ・重要な3つの課題： 20%  授業の最後に出される課題のうち、3つの重要な課題の提出率と質  ・eALPSでの小テストの受験率： 20%  ・最終課題の質： 30%  ・授業での積極性： 10%</p> <p>(6)成績評価の基準  『その水準にある』：「通常課題」を60%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を60%以上受験し、授業の内容を理解したうえで書いた「最終課題」を提出し、いくつかの授業で積極性が見られる者。  『やや上にある』：「通常課題」を70%以上提出し、「重要な3つの課題」のうち2つを提出しており、「eALPSの小テスト」を70%以上受験し、『その水準にある』事項が含まれたうえで自分なりに調べた事実を効果的に加えた「最終課題」を提出し、ほとんどの授業で積極性が見られる者。  『かなり上にある』：「通常課題」を90%以上提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえである程度の評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を繰り返し受験し、『やや上』までの事項が含まれたうえで説得力があるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業で積極性が見られる者。  『卓越している』：「通常課題」を全て提出し、「重要な3つの課題」を全て提出したうえで高い評点を獲得しており、「eALPSの小テスト」を全て100点になるまで繰り返し受験し、『かなり上』までの事項が全て含まれたうえで教員を感心させるレベルの「最終課題」を提出し、全ての授業での積極性が他の学生より際立っている者。</p> <p>(7)事前事後学習の内容  毎授業後に、授業で使ったスライドをアップロードするので、それらを読んで授業内容を復習してください。そのうえで、課題作成に必要な事実を教材やInternet等から探し、それらを総合して記述する課題を提出してください。  また、時々、教材をページ指定のうえ読んでくれるよう指示をします。しっかり読んでからeALPS「小テスト」を受けてから授業に来てください。小テストは3回受けられるので、満点にしてから受講してください。  さらに、国際関係および多文化共生に関するニュースに敏感になり、様々なニュース・ソースから素早く情報を入手と判断し、他人に伝達できるよう、自分を鍛えていってください。  この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(8)履修上の注意  同グループの人の話を聞いて、それを元に自分の情報や意見をしっかりと述べる態度を求めます。漫然と、発言もなくディスカッションの席に座っていることは許可しません。  グループは2回、交代します(計3グループ)。グループ・メンバーの迷惑になるので、遅刻・欠席をしないでください。  授業前に出席確認システムで着席登録のみしてから帰る、または代理で登録することが分かった場合、CまたはDになることがあります。</p> <p>(9)質問・相談への対応  全学教育機構棟2F・グローバル化推進センターの先にある「佐藤研究室」にいますので、質問・意見などがあれば、いつでも気軽にきてください。また、授業後すぐでも受け付けますし、メールでの質問もOKです。  佐藤のメールアドレスは  stomo@shinshu-u.ac.jp  です。  授業では、松本市内での多文化共生の活動や信大での国際交流活動を積極的に紹介します。そのような活動に興味がある場合も質問・相談にきてください。</p>							
<p>【教科書】  名嶋義直ほか『10代からの批判的思考 - 社会を変える9つのヒント』 第3刷 明石書店 2020 2,300円+税  【参考書】  移民政策学会設立10周年記念論集刊行委員会『移民政策のフロンティア - 日本の歩みと課題を問い直す』 明石書店 2018 2,500円+税  松尾慎ほか『多文化共生 人が変わる、社会を変える』凡人社 2018 2,000円+税  とよなか国際交流協会『外国人と共生する地域づくり』 大塚・豊中の実践から見えてきたもの。明石書店 2019 2,400円+税  鴻上尚史ほか『同調圧力 - 日本社会はなぜ苦しいのか』 講談社 2020年 840円</p>							

時間割コード	G2B50303	開講年度	2022		
授業題目	ニューバイオテクノロジー入門			担当教員	保坂 毅
英文授業名	Introduction to New Biotechnology				
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜, 4 時限
講義室	共通教育 1 0 講義室		授業形態	講義	備考
				対象学生	全
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素          ・【2020年度以降加付対象】学士の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力          ・【2020年度以降加付対象】持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力          【授業の達成目標】          ・微生物、キノコおよび動植物のバイオテクノロジーについて、先端技術および最新研究に関する知識を習得し、それらを理解できるようになる。          ・ニューバイオテクノロジーに関する技術開発の歴史を知り、微生物、キノコおよび動植物のバイオテクノロジーの発展に貢献した技術や研究に関する知識を習得し、それらを理解できるようになる。          【授業のねらい】          生命科学の進歩は、微生物、キノコおよび動植物の細胞を用いて、遺伝子組換え、ゲノム工学、タンパク質工学、細胞工学、発生工学技術などにおける目覚ましい発展をもたらしている。          この講義では、生命の基本的な仕組みについて学び、微生物、キノコ、動植物の最先端技術に関する知識を習得し、それらが確立された経緯や考えを理解できるようになる。さらに、生物のもつ機能の多様性および生物を構成する分子の有用性についての認識が深まるとともに、生物資源を利用した医療技術や医薬品の開発の実状と課題について触れることができる。また、生命の多様性を再確認し、人がどのように他の生命と共存・共生していくべきかについて考えるための基本的知識を得ることができる。</p> <p>(2)授業の概要          本講義では次の - の内容に関する話題を中心に解説する。          醗酵を含め旧来のバイオテクノロジーからゲノム工学による新しいバイオテクノロジー          育種からエビジェネティクスまで、バイオテクノロジーの多岐にわたる分野の新たな可能性          低分子医薬品やバイオ医薬品の研究開発における課題          産業的にその発展が注目されているキノコの基礎知識とその育種・栽培技術の開発方法          進化の過程で多様性を獲得してきたキノコの遺伝子レベルでの系統解析法と最新の研究成果          DNAの構造と遺伝子の働き、微生物や動植物の細胞を用いた遺伝子組換え          遺伝子組換え生物・食品について、その有用性と安全性の考え方</p> <p>(3)授業のキーワード          微生物、シアノバクテリア、キノコ、幹細胞、ウイルス、遺伝子操作、遺伝子工学、ゲノム工学、タンパク質工学、エビジェネティクス、バイオ燃料、医療、低分子医薬品、バイオ医薬品、遺伝子組換え食品、遺伝子組換え生物</p> <p>(4)授業計画          1 概論 - オールドバイオからニューバイオへに関する講義 (池田 9月27日)          2 ニューバイオの例1「先端医療」に関する講義 (池田 10月4日)          3 ニューバイオの例2「微生物ゲノムのインパクト」に関する講義 (池田 10月11日)          4 ニューバイオの例3「グリーンプラとバイオ燃料」に関する講義 (池田 10月18日)          5 低分子医薬品の研究開発における課題に関する講義 (喜井 10月25日)          6 バイオ医薬品の研究開発における課題に関する講義 (喜井 11月1日)          7 エビジェネティクスに関する講義 (鈴木 11月8日)          8 臓器間の情報のやり取りに関する講義 (鈴木 11月15日)          9 細胞の質的変化を促す食品成分に関する講義 (三谷 11月29日)          10 臓器の老化と細胞の老化に関する講義 (三谷 12月6日)          11 キノコのバイオテクノロジー「キノコの育種技術1」に関する講義 (福田 12月13日)          12 キノコのバイオテクノロジー「キノコの育種技術2」に関する講義 (福田 12月20日)          13 微生物資源を利用した医薬品の開発に関する講義1 (保坂12月27日)          14 微生物資源を利用した医薬品の開発に関する講義2 (保坂 1月10日)          15 遺伝子操作技術の歴史の概観に関する講義、授業アンケート (保坂 1月17日)          16 期末試験 (保坂 1月24日)</p> <p>(5)成績評価の方法          成績は、教員が課すレポート、講義の理解度をみる小テスト、あるいは期末テストの採点結果に基づき、各教員の担当講義数を加味した上で総合的に評価する。          成績評価の大略として、講義で重要であると示された情報としての知識を習得していること、その情報に関連した科学的考え方およびその知識を応用する上での考え方を理解していること、さらに 自分なりのアイデアを組み立てることができること項目に従って、その水準にある、水準よりやや上にある、水準よりかなり上にある、卓越している(上位10%程度)、とする。</p> <p>(6)成績評価の基準          試験は、講義内容の理解度およびその達成度を評価するために実施する。講義内容の理解およびその達成度が60%以上を「その水準にある」、70 %以上を「やや上にある」、80%以上を「かなり上にある」とし、さらに、90%以上でかつ独創的なアイデアを認めた場合に「卓越している」とする。          レポートでは以下の6項目に対し評価する。(i)課題への理解が適切である。( )課題の背景が説明できる。( )課題に関する未解決の問題を説明できる。( )未解決の問題に対する解決策を説明できる。( )その解決策が独創的である。( )レポートの内容が論理的で、文章が正しく構成されている。これら、6項目を全て満たしていれば「卓越している」、5項目であれば「かなり上にある」、4項目であれば「やや上にある」、3項目であれば「その水準にある」とする。</p> <p>(7)事前事後学習の内容          講義の事前学習：講義のキーワード等を参考に事前調査し、調査結果を自分の言葉でノートにまとめる。また、教員から出された課題等に取り組む。          講義の事後学習：講義で紹介された内容を復習し、各自でノートにまとめる。さらに、講義で紹介された参考書や文献の調査を行い、その内容を自分の言葉でノートにまとめる。          以上の学習については、学習内容として決められた時間内にできる範囲を標準とする。          この授業は90時間の学修を必要とする内容であるため、60時間以上の時間外学習が必要となることを標準的な前提とする。</p> <p>(8)履修上の注意          本講義は高校で学ぶ程度の生物学と化学の知識があることを前提にした内容になるが、どんな些細なことでも構わないので、理解できない語句や講義内容については積極的に質問すること。          正規の授業開始時刻の5分以後の入室を遅刻とする。</p> <p>(9)質問、相談への対応          相談・質問事項があれば、講義の際に担当教員に、直接、相談・質問を行うこと。          また、Eメール (thosaka@shinshu-u.ac.jp) でも相談や質問を受け付けます。メールの場合、どの教員への相談・質問事項が明記すること。</p>					
<p>【教科書】          指定しない。          【参考書】          各講義の担当教員が講義の中で紹介する。</p>					

登録コード	L1133500	開講年度	2022				
担当教員	三谷 尚澄		副担当				
授業科目	哲学・思想論特論						
授業タイトル	西洋思想特殊講義						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限	
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な哲学の問題/テキストと真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことこの真相を突きとめようとする視点・態度を獲得する。</li> <li>・代表的な哲学の問題/テキストを批判的に検討することを通じて、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学的・思想的に重要な問題をテーマとした資料の検討を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得すること。</li> <li>2. 概念的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、さまざまな哲学的問題に対してより奥行きのある深いしかたでアプローチし、総合的に吟味・検討する能力を習得すること。</li> <li>3. レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得すること。</li> </ol>						
授業の概要	<p>この授業では、歴史的に重要な「古典」と呼ばれる書物の読解を通じて、「哲学するとはどのようなことであるか」を実地に体験してもらう。今年度は、Immanuel Kant, “Kritik der reinen Vernunft,” 1781/1787 (カント『純粋理性批判』) から、とくにその「序論(Einleitung)」を読む。</p> <p>具体的には、i) 各回につき二十分程度、対象となるテキストの理解に有益な入門レベルの資料を担当者がレジュメ形式で紹介した後、ii) 教員が原典の解説を行う、というハイブリッド形式で授業が進められる。(つまり、たんなる講義科目ではなく、入門書の内容に関する報告を行うことが受講生には要求される。)</p> <p>なお、翻訳(日本語訳、英語訳)を併用するが、あえてドイツ語原典にアタックする意欲ある受講者を歓迎かつ期待したい。</p>						
授業計画	<p>第1回: ガイダンス</p> <p>第2回: 純粋な認識と経験的な認識の違いについて(1)</p> <p>第3回: 純粋な認識と経験的な認識の違いについて(2)</p> <p>第4回: わたしたちはアприオリな認識を所有していること、日常的な知性の利用にもアприオリな認識が含まれないわけではないこと(1)</p> <p>第5回: わたしたちはアприオリな認識を所有していること、日常的な知性の利用にもアприオリな認識が含まれないわけではないこと(2)</p> <p>第6回: 哲学には、すべてのアприオリな認識の可能性、原理、範囲を規定する学が必要である(1)</p> <p>第7回: 哲学には、すべてのアприオリな認識の可能性、原理、範囲を規定する学が必要である(2)</p> <p>第8回: 分析的な判断と総合的な判断の違いについて(1)</p> <p>第9回: 分析的な判断と総合的な判断の違いについて(2)</p> <p>第10回: 理性に基づくすべての理論的な学には、アприオリな総合判断が原理として含まれる(1)</p> <p>第11回: 理性に基づくすべての理論的な学には、アприオリな総合判断が原理として含まれる(2)</p> <p>第12回: 純粋理性の普遍的な課題(1)</p> <p>第13回: 純粋理性の普遍的な課題(2)</p> <p>第14回: 純粋理性批判と呼ばれる特別な学の理念と区分(1)</p> <p>第15回: 純粋理性批判と呼ばれる特別な学の理念と区分(2) / 授業アンケート</p>						
成績評価の方法	授業で解説された哲学的諸問題に関する適切な理解がなされているかについて、学期中の報告(もしくはレポート)と学期末レポートの結果をあわせて総合的に評価する。(前者が3割、後者が7割。)						
成績評価の基準	<p>教員の提示するレポート課題に対し、(i)適切なまとめと建設的かつ説得的な論点が記述できていれば「卓越している」。</p> <p>(ii)適切なまとめと説得的な論点が記述できていれば「かなり上にある」。</p> <p>(iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できていれば「やや上にある」。</p> <p>(iv)瑕疵のないまとめと妥当性の認められる論点が記述されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	課題資料を熟読し、毎回の授業内容の理解に努める。また、授業で扱われたテーマに関して、受講生同士での自発的な議論を行い、発展的な論点の発掘を心がける。						
履修上の注意	講義科目であるが、各回の授業のはじめに、カントの哲学に関する入門的な内容を、担当者が受講生全体に向けて解説する報告の時間を設ける。成績評価の対象となるので、しっかり取り組むこと。(たんなる講義科目ではないことに注意すること。)						
質問、相談への対応	オフィスアワー(火曜12時15分~13時15分)を通じて対応する。						
教科書	Immanuel Kant, “Kritik der reinen Vernunft,” 1781/1787 (PhB版を使用する。) カント(中山元訳)『純粋理性批判 1』光文社古典新訳文庫、2010年 ( * 翻訳については、より詳細な情報を授業中に指示する。 ) ( * その他、カントの哲学に関する入門的な内容を扱った文献を授業中に指定する。 )						
参考書	授業中に指示する。						

登録コード	L1133800	開講年度	2022				
担当教員	早坂 俊廣		副担当				
授業科目	哲学・思想論特論						
授業タイトル	中国思想講義						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> <li>異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伝統中国の学問のあり方を理解し、それを現代社会の分析に適用することができる。</li> <li>伝統中国の学术交流・人的結合の様態を理解し、それを他者理解に適用することができる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>東アジアの伝統思想について、その思想史的背景を学ぶとともに、その哲学的な意義を検討します。そのことにより、東アジアの伝統思想が、決して過去の遺物ではなく、現代の諸問題を考える上でも有効な視点を提供するものであることを理解し、柔軟な発想で物事に取り組むことができるようになることを目指します。また、レポートの作成を通じて、読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得することも目指します。</p>						
授業の概要	朱子学（新儒教、宋明理学）の基本概念を学びます。そのことを通じて、東アジア伝統思想の骨幹を成す朱子学の発想や思想構造について理解を深め、その思想史的背景及び哲学的な意義を解明していきます。						
授業計画	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ガイダンス：朱子学について</li> <li>2) 「仁」について</li> <li>3) 「義」について</li> <li>4) 「礼」について</li> <li>5) 「智/知」について</li> <li>6) 「信」について</li> <li>7) 「忠」について</li> <li>8) 「孝」について</li> <li>9) 「性」について</li> <li>10) 「心」について</li> <li>11) 「経」について</li> <li>12) 朱子と北宋の思想家たち</li> <li>13) 朱子と陸象山</li> <li>14) 朱子と王陽明</li> <li>15) まとめ・授業アンケート</li> </ol> <p>定期試験：なし（レポート提出）</p>						
成績評価の方法	授業時のコメントペーパー5割、期末レポート5割の比率で、到達度を総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	事前に教科書に目を通しておくこと、事後に教科書で扱われている原典（の翻訳）を自分で確認して理解を深めておくことが必要です。						
履修上の注意	教科書は必ず購入してください。また、eALPSの当該コースをこまめにチェックしてください。						
質問、相談への対応	まずは、メールでhayask@shinshu-u.ac.jpまで連絡をください。						
教科書	垣内景子『朱子学のおもてなし より豊かな東洋哲学の世界へ』（ミネルヴァ書房）						
参考書	湯浅邦弘編『中国思想基本用語集』（ミネルヴァ書房）、小島毅著『朱子学と陽明学』（ちくま学芸文庫）。その他、授業中に適宜紹介します。						

登録コード	L1134700	開講年度	2022				
担当教員	三谷 尚澄		副担当				
授業科目	哲学・思想論基幹演習						
授業タイトル	哲学基幹演習						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限	
講義室	人文第5講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代表的な哲学の問題/テキストと真剣に向き合うことを通じて、常識的思考が陥りがちな硬直状態を抜け出し、虚心にことの本質を突きとめようとする視点・態度を獲得する。</li> <li>・代表的な哲学の問題/テキストを批判的に検討することを通して、他者の受け売りではない自分独自の思考を練り上げることができるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 哲学的・思想的に重要な問題をテーマとして書かれた標準的なレベルの専門文献を読みこなす能力を習得すること。</li> <li>2. 読み解いた内容を自分なりに噛み砕き、他人に理解できる言葉で明瞭に整理して伝達する能力を習得すること。</li> <li>3. さまざまな文献の読解を通じて、代表的な哲学的問題に関する幅広い知識を修得すること。</li> <li>4. 概念的背景、事柄に即した論理的・批判的思考等を通じて、より奥行きをもったしかたでテキストを総合的に吟味・検討する能力を習得すること。</li> <li>5. 上記課題の達成を通じて、独りよがりでない本当の意味での「考える力」を身につけ、卒業論文の作成という最終目標を達成するために必要な能力を習得すること。</li> </ol>						
授業の概要	<p>哲学を学ぶうえで、読み、考え、議論し、書く能力の訓練と修得が必須であることは言うまでもない。しかし、同時に、こういった哲学の技法を使いこなせるようになるためには、さまざまな問題をめぐる代表的な見解を理解し、背景知識として蓄え、自分自身のポキャブラリーの一部として使いこなせるようになっておく、という「まねび/真似び」のプロセスもまた同等に重要である。</p> <p>このような考え方に基づいて、この授業では、(1)歴史的に重要な哲学的問題を扱った、日本語もしくは英語で書かれた標準的なレベルの文献を取り上げ、(2)それらの文献の自主的な読解を通じて、発展的な学びの土台となる堅実な知的基盤を構築すると同時に、(3)担当者の報告をもとに共同で討議することで、明晰なプレゼンテーションと建設的な対話の能力を涵養することを目指す。</p> <p>なお、本年度は、伊勢田哲治氏の著作『動物からの倫理学入門』を取り上げ、「動物倫理」(動物実験、肉食、野生動物保護等の問題)を出発点に、最終的には、現代における倫理学の全体的状況を俯瞰できるだけの知識を獲得することを目指す。</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス  第2回：倫理学へのけもの道  第3回：動物解放論とは何か(1)  第4回：動物解放論とは何か(2)  第5回：種差別は擁護できるか(1)  第6回：種差別は擁護できるか(2)  第7回：倫理は「人と人とのもの」か(1)  第8回：倫理は「人と人とのもの」か(2)  第9回：倫理なんてしょせん作りごとなのか(1)  第10回：倫理なんてしょせん作りごとなのか(2)  第11回：人間と動物にとって福利とは何か(1)  第12回：人間と動物にとって福利とは何か(2)  第13回：肉食は幸福の量を増やすか  第14回：柔らかい倫理から動物はどう見えるか  第15回：動物は結局どう扱えばいいのか/授業アンケート</p>						
成績評価の方法	扱われた哲学的話題が適切に理解できているかについて、担当回での発表の内容(5割)と学期末のレポート(5割)をあわせて総合的に評価する。						
成績評価の基準	成績評価の対象となる各項目について、(i)熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii)熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii)真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv)妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。						
事前事後学習の内容	発表担当でない回についても、資料の該当箇所を熟読してくる。また、授業終了後には、授業において議論された内容について熟慮し、次回以降の議論に生かすことができるよう整理しておくこと。						
履修上の注意	各受講者には、自分の発表担当でない回にも出席し、積極的に発言することが必須の責任として要求される。						
質問、相談への対応	オフィスアワー 火曜12時15分～13時15分 を通じて対応する。						
教科書	伊勢田哲治『動物からの倫理学入門』、名古屋大学出版会、2008年						
参考書	授業中に指示する。						

登録コード	L1142800	開講年度	2022				
担当教員	早坂 俊廣		副担当				
授業科目	哲学・思想論発展演習						
授業タイトル	中国思想発展演習						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限	
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・素朴な疑問を出発点として、根源的な問いかけを行うことができる。</li> <li>・古典やそれに関する学術論文の読解・分析を行い、それを現代社会に適用することができる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>中国哲学/異文化間対話に関する研究論文を徹底的に読み込むことを通して、その思想世界を正確に深く理解すること、そして、このような形で「伝統思想」と向き合うことによって、現代社会のものの見方を特権化せず、自己をより広い地平で捉えられる視座を獲得することを目指します。さらに、複雑な事象を簡潔に要約する技能や、自己の考えた事柄を他人に正確に詳しく伝える技能の修得をも目指します。</p>						
授業の概要	<p>主要テーマは「明清時代中国におけるキリスト教・儒教・仏教の対話」です。具体的には、明代中国を訪れたイエズス会宣教師・利瑪竇（マッテオ・リッチ）を取り上げている、以下の研究論文を講読します。</p> <p>平川祐弘「マッテオ・リッチと「敬天愛人」」  新居洋子「他者の発見と自己の再発見 明清時代の中国とヨーロッパとの思想接触」  柴田篤「天主教と朱子学 『天主実義』第二篇を中心にして」  柴田篤「明清天主教における十誡 「愛天主・愛人」の概念を通して」  西村玲「慧命（えみょう）の回路 明末・雲棲シュ宏の不殺生思想」</p> <p>毎回、担当者を決めて、読解と考察の成果を報告してもらい、それについて参加者全員で討議します。講読と討議を通じて、【授業のねらい】に記した見識や技能を身につけていきます。</p>						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス  第2回：第1論文 読解と討議  第3回：第1論文 考察と討議  第4回：第2論文 読解と討議  第5回：第2論文 考察と討議  第6回：第3論文 読解と討議  第7回：第3論文 考察と討議  第8回：第4論文 読解と討議  第9回：第4論文 考察と討議  第10回：第5論文 読解と討議  第11回：第5論文 考察と討議  第12回：第一グループによる総括とそれに関する討議  第13回：第二グループによる総括とそれに関する討議  第14回：第三グループによる総括とそれに関する討議  第15回：全体討議・授業アンケート  定期試験：なし（最終レポート）</p>						
成績評価の方法	おおむね報告と授業中の発言50%、最終レポート50%の割合で、中国伝統哲学と異文化間対話に関する理解度を評価します。						
成績評価の基準	<p>成績評価の基準は以下の通りです。</p> <p>成績評価の対象となる各項目について、(i) 熱心な態度と明確な貢献が際立っており、建設的かつ説得的な内容を備えた報告が提出されていれば「卓越している」。(ii) 熱心な態度と十分な貢献が認められ、適切かつ整合的な内容を備えた報告が提出されていれば「かなり上にある」。(iii) 真摯な態度とある程度の貢献が認められ、十分に妥当な内容を備えた報告が提出されていれば「やや上にある」。(iv) 妥当な態度とある程度の貢献が認められ、瑕疵のないまとめと論理性を備えた報告が提出されていれば「水準にある」。</p>						
事前事後学習の内容	事前に、インターネットを通して研究論文を入手し、通読しておいてください。事後には、その論文で引用・参照されている先行研究や原文（翻訳）の確認も含めて、改めて熟読玩味することが必要です。						
履修上の注意	研究論文は自分で入手してください。						
質問、相談への対応	まずは、メール（hayask@shinshu-u.ac.jp）でコンタクトを取ってください。						
教科書	使用しない。						
参考書	後藤基巳『天主実義』（明德出版社） 柴田篤『天主実義』（平凡社） 平川祐弘『マッテオ・リッチ伝1～3』（平凡社） 渡辺祐子他『はじめての中国キリスト教史』（かんよう出版）						

登録コード	L1143100	開講年度	2022				
担当教員	護山 真也		副担当				
授業科目	哲学・思想論発展演習						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・5時限	
講義室	人文第3講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比較思想の方法を学び、自らの知のあり方を相対的にとらえる力を養う</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>演習形式で行われるこの授業では、インド哲学・仏教哲学の文献講読を通して、現代の私たちにも密接に関係する哲学的問題が古代インドの哲学者たちによりどのように理解されてきたのかを理解し、私たちに自明の前提を相対化して考える力を養います。また、授業での発表や質疑応答を通して、論理的思考とその応用としてのディスカッションの力を獲得することを目標とします。</p>						
授業の概要	<p>私たちはどのようにして他者に心があることを知ることができるのか、という「他我問題」は、これまでの哲学の歴史のなかで繰り返し論じられたきました。仏教哲学のなかでも、特に唯識思想を背景として、同じ問題が議論されました。もし世界が私たちの心の現れにすぎないのだとしたら、他者の心もまた同じように自分の心が生み出した幻影に等しいものではないか、仮に他者の心があるとしても、どのようにしてそれを「正しく」知ることができるのか、という点について、ヴァスバンドゥ、ダルマキールティ、ラトナキールティといった思想家たちが考察を行っています。</p> <p>この演習では、彼らのテキストの翻訳研究を使いながら、発表と質疑応答を行います。</p>						
授業計画	<p>第01回：イントロダクション</p> <p>第02回：インド仏教における他我問題に関する議論の見取り図</p> <p>第03回：梶山論文に関する発表と討議</p> <p>第04回：梶山論文に関する発表と討議</p> <p>第05回：『唯識二十論』の他心知をめぐる議論の検討</p> <p>第06回：『唯識二十論』の他心知をめぐる議論の検討</p> <p>第07回：ダルマキールティ『他相続証明』（上）解読</p> <p>第08回：ダルマキールティ『他相続証明』（中）解読</p> <p>第09回：ダルマキールティ『他相続証明』（下）解読</p> <p>第10回：梶山論文に関する発表と討議</p> <p>第11回：ラトナキールティ『他相続論駁』（上）解読</p> <p>第12回：ラトナキールティ『他相続論駁』（中）解読</p> <p>第13回：ラトナキールティ『他相続論駁』（下）解読</p> <p>第14回：Inami論文（前半）に関する発表と討議</p> <p>第15回：Inami論文（後半）に関する発表と討議・授業アンケート</p>						
成績評価の方法	発表内容4割、質疑応答2割、レポート4割の比率で総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>卓越している：テキストの内容を十分に理解し、周辺の資料にも目を配り、自分の意見を論理的に展開している。</p> <p>かなり上にある：テキストの内容を理解し、周辺の資料の一部も参照しながら、自分の意見を述べている</p> <p>やや上にある：テキストの内容を部分的に理解し、自分の意見を述べている</p> <p>その水準にある：テキストの内容の要約はできている</p>						
事前事後学習の内容	発表担当者は分担箇所の精読と関連資料の調査をもとに発表資料を作成します。担当者以外の人は、事前に発表箇所と発表レジュメを読み込み、生産的な議論ができるよう十分な予習を行ってください。また、演習後はそれぞれの発表および発言内容を振り返り、理解の足りなかった点を補う復習をしてください。						
履修上の注意	2年生以上で仏教哲学に興味のある人であれば、履修できます。（基幹演習を前提とする演習ではありません。）						
質問、相談への対応	基本的にメール（smoriyam@shinshu-u.ac.jp）で受け付けます。必要に応じて、zoomでのオンライン面談にも応じます。その場合もまずはメールで連絡をとってください。						
教科書	授業中にプリントを配布します。						
参考書	<p>梶山雄一『梶山雄一著作集第7巻 認識論と論理学』（春秋社、2013年）</p> <p>兵頭一夫『唯識ということ 『唯識二十論』を読む』（春秋社、2006年）</p>						

登録コード	L2120200	開講年度	2022				
担当教員	伊藤 加奈子		副担当				
授業科目	中国語学概論						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限	
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の歴史を紐解き、文字・音韻・語彙・文法といった様々な面から広く理解をします。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素 / : 全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> <li>・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本と同じアジア、同じ漢字文化圏であると単純に見做されがちな中国語の世界をより多角的にとらえることができるようになる</li> <li>・古代から現代に渡る中国語の長い歴史を概観し、日本語との関わり、文化に与えた影響を考える力を培うことができるようになる</li> <li>・文字・音韻・文法といった様々な切り口から、中国語漢字文化の多様性を受容できるようになる</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>中国語の文字・音韻・意味・文法について、歴史的な視野から広く全面的に把握することを目標とします。毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成します。</p>						
授業の概要	教科書と補足資料を利用しつつ授業を進めます。用語については、日本語で用いられ流布している意味と、また中国語であっても現代語で流布している意味とは必ずしも一致しない場合もあるため、表面的な意味把握にならないよう留意して進めていきます。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス、中国語の特徴とは  第2回：現代の中国語漢字とピンインなど  第3回：漢字の変遷、規範化について  第4回：「字書」について  第5回：音韻の表記法について  第6回：「韻書」について  第7回：音韻史の時代区分  第8回：中古音について  第9回：「義書」と「方言」について  第10回：語彙について  第11回：外来語について  第12回：基本の文構造について  第13回：「馬氏文通」について  第14回：国語文法から現代の文法観へ  第15回：表現法の変遷、まとめ、授業アンケート</p> <p>以上は目安であり、授業の進行状況に応じて適宜調整する可能性があります。</p>						
成績評価の方法	授業参加態度（5割）と期末試験（5割）にて評価します。						
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卓越している：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から確実に把握した形でポイントを自ら指摘して説明でき、その上で更に不明な点を発見指摘することができる。</li> <li>・かなり上にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から確実に把握した形でポイントを自ら指摘して説明できる。</li> <li>・やや上にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から大まかに把握し、且つポイントとなる文法項目を自ら指摘して説明できる。</li> <li>・その水準にある：中国語の文字・音韻・語義・文法それぞれの項目を歴史的な視野から大まかに把握することができる。</li> </ul>						
事前事後学習の内容	教科書を利用した授業ですが、内容の関連性を重視するため、表記の数字通りには進まない面があります（参照：(3)授業計画）。予習に際してはその点を注意してください。						
履修上の注意	中国語母語話者も勿論受講生として歓迎しますが、語学的な観点から母語を見つめ直すことのできる人を望みます。						
質問、相談への対応	毎週火曜日12：30～13：20のオフィスアワーでは人文学部棟2階で行われている中国語サロンにいます。その他の日時でも、授業以外の研究室にいる時には対応できますので、気軽にメールで問い合わせてください。伊藤の授業担当時限は人文学部・人文科学研究科・共通教育シラバスにて確認してください。メールアドレス：itokana@shinshu-u.ac.jp						
教科書	『中国語の歴史 ことばの変遷・探究の歩み（あじあブックス）』大島正二（著）、大修館書店 2,052円						
参考書	適宜コピー等を配布します。						



登録コード	L2140600	開講年度	2022				
担当教員	氏岡 真土		副担当				
授業科目	中国語学・中国文学発展演習						
授業タイトル	中国語学・中国文学発展演習						
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第3講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講生は意欲的な取り組みによって、問題点を明らかにし、議論し、結論を出す力を養うことができる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>古典を主な対象として、さまざまな角度から；  問題点を明らかにし、議論し、結論を出す力を養ってゆきましょう。  毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成する。</p>						
授業の概要	<p>交代で担当者が資料を作成し、それをもとにテキストを検討します。  また各自の問題意識に即して、色々な方向に考察を進め、発表する機会も設けます。  担当者以外の方も毎回、質疑応答や意見交換のかたちで授業に参加することは勿論です。</p>						
授業計画	<p>1) はじめに  2) 『文選』巻十九第9葉b面の検討(以下宋玉「登徒子好色賦」一首并序)  3) 第10葉a面の検討  4) 第10葉b面の検討  5) 第11葉a面の検討  6) 第11葉b面の検討(以下曹植「神女賦」一首(并序))  7) 第12葉a面の検討  8) 第12葉b面の検討  9) 第13葉a面の検討  10) 第13葉b面の検討  11) 第14葉a面の検討  12) 第14葉b面の検討  13) 第15葉a面以降の検討  14) 宋玉に関する考察  15) 曹植に関する考察</p>						
成績評価の方法	平常点(毎回の授業への参加度。「授業の概要」参照)。						
成績評価の基準	<p>1. 先行研究の咀嚼  2. 妥当かつ独自性ある見解の提示  3. 積極的な参加</p> <p>以上の諸点を等分し、毎回の授業における達成度の累計によって、総合的に判定します。</p>						
事前事後学習の内容	<p>1. 上述の諸点に留意して予習し；  2. 授業によって必要事項を明確に把握し；  3. それを次の予習に生かすことが、すなわち復習です。</p>						
履修上の注意	<p>中国語学・中国文学分野(関係)の学生は、必修。  初回の授業で、スケジュールを決めます。  あらかじめ教科書に目を通し、分担希望箇所を決めておくこと。</p>						
質問、相談への対応	平日の日中できるかぎり随時、歓迎します。詳しくは授業で。						
教科書	『文選』(李善注胡刻衍宋本)。						
参考書	授業時に適宜、紹介します。						

登録コード	L2232500	開講年度	2022				
担当教員	葛西 敬之			副担当			
授業科目	ドイツ言語文化特論						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3時限
講義室	人文501演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語を精確に読解する能力を身につけ、異文化をより深く考察できるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>様々なドイツ語のテキストを精読することにより、ドイツ語文法基礎の定着と更に高度なドイツ語力の獲得をめざす。また、文化、文学、思想、社会に関するテキストを精読した上でディスカッションすることにより、広く知識を身につけるだけではなく、様々な視点から物事を観察・思考し、それを適切に言語化できるようになる。</p>						
授業の概要	文化、文学、思想、社会に関するテキストを訳読し、その内容に関して議論する。さらにこれらを通じて得た知見を元に、ドイツ文化・文学に関して自らが設定したテーマに基づき発表・議論をする。						
授業計画	<p>以下のテキストを精読し、その内容について議論します（扱うテキストは、進度や受講生の関心に応じて変更する場合があります）。</p> <p>第1回 発音、初中級文法の確認  第2回 カフカ『変身』(1)  第3回 カフカ『変身』(2)  第4回 ジュースキント『香水』(1)  第5回 ジュースキント『香水』(2)  第6回 ツェラーン『死のフーガ』(1)  第7回 ツェラーン『死のフーガ』(2)  第8回 ヴァイツゼッカー『1985年5月8日の演説』(1)  第9回 ヴァイツゼッカー『1985年5月8日の演説』(1)  第10回 マン『ヴェニスに死す』(1)  第11回 マン『ヴェニスに死す』(2)  第12回 学生発表(1)  第13回 学生発表(2)  第14回 学生発表(3)  第15回 まとめ、総復習、授業アンケート</p>						
成績評価の方法	担当箇所の訳読及び議論への参加度60%、発表及び期末レポート40%の比率で総合的に評価します。						
成績評価の基準	<p>担当箇所の訳読及び議論への参加度に関しては、扱われるドイツ語テキストの7割程度理解でき、かつ議論において自らの意見を論理的に表現できればその水準にあるとする。テキストがほぼ完全に理解でき、かつ議論において、多様な視点からテキストを検討した上で自らの意見を論理的に表現できれば卓越しているとする。</p> <p>期末レポートでは、授業で扱われた内容から自分なりの視点で仮説を立て、説得的な論述によって証明されれば卓越しているとし、その際、形式や表現に瑕疵があれば、やや上にあるとする。自分なりの視点で立てられた仮説が証明されれば、やや上にあるとする。授業で扱われた内容を踏まえて自分なりの視点を立てられていれば、水準にあるとする。</p>						
事前事後学習の内容	<p>しっかりと予習すること。わからない箇所があった場合、どのような読解を試みて理解できなかったのか、説明できるようにしてください。ただ「わかりません」としか言えない場合は、予習をしていなかったものとみなされます。</p> <p>授業で扱われた箇所は、授業後に必ずもう一度読んでください（音読推奨）。その際、理解出来ない部分が残っていた場合、翌週の授業で教員に質問してください。</p>						
履修上の注意	ドイツ語文法の基礎的な知識があることを前提とする。						
質問、相談への対応	オフィスアワー（水曜日12時10分から12時50分）に受け付ける。						
教科書	Susanne Schermann /相原剣著『ドイツ語を読む 改訂版』朝日出版社、2200円＋税、ISBN: 978-4-255-25417-3						
参考書	中嶋悠爾他『必携 ドイツ文法総まとめ』（白水社）2003年 阿部賀隆『独文解釈の研究』（郁文堂）1961年						

登録コード	L2330200	開講年度	2022				
担当教員	吉田 正明			副担当			
授業科目	フランス言語文化特論						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限
講義室	人文401演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・フランス言語文化の理解をとおして、異文化理解が深まり、多角的に判断する力を身に付ける。</p> <p>(3)【授業のねらい】 フランス詩の読解と鑑賞を通して、異文化理解を深め、柔軟な受容力と多角的な判断力を養う。</p>						
授業の概要	音楽を付けられて歌われているフランスの現代詩を取り上げ、それを精読し詩の構造と形式を学ぶとともに、それらの詩を鑑賞していく。						
授業計画	<p>1回 アポリネール 「ミラボー橋」「さらば」 2回 " 「病んだ秋」「ロズモンド」 3回 エリュアール 「恋する女」「パロール」 4回 " 「春」「青春が青春を生み」 5回 アラゴン 「今青春が」「聞こえる、聞こえる」 6回 " 「エルザ」「君がいなければ」 7回 " 「赤い貼り紙」「愛して死するものは幸せなりき」 8回 デスノス 「夜に味方して」「フローレンスに捧ぐ詩」 9回 " 「一枚の葉っぱがあった」「とある夜」 10回 プレヴェール 「ひまわり」「そして祭りは続く」 11回 " 「誰か」「子ども狩り」 12回 コクトー 13回 サン＝ジョン・ベルス 14回 レイモン・クノー 15回 詩的シャンソンについて 授業アンケートを実施する。</p> <p>期末試験は行わず、レポートで評価する。</p>						
成績評価の方法	授業中のフランス語の訳読(50%)とレポート(50%)を総合して評価する。						
成績評価の基準	<p>1) 毎回フランス語のテキストの予習を課し、授業中その訳読を評価する。受講生には毎回訳読を担当してもらい、予習が十分なされその訳読が「卓越している」46～50点、「かなり上にある」41～45点、「やや上にある」36～40点、「合格の水準にある」30～35点、「予習が足りず不十分である」30点以下、満点50点。</p> <p>2) 期末レポートに関しては、問題の設定が適切である。論旨が明快である。参考文献が有効かつ適切に活用されている。文章表現が適切かつ説得力がある。結論が適確に導かれている。自分の見解が示されている。以上6項目すべてに当てはまれば「卓越している」46～50点、「かなり上にある」41～45点、「やや上にある」36～40点、「合格の水準にある」30～35点と判定する。</p> <p>以上を総合して評価する。満点100点。</p>						
事前事後学習の内容	<p>毎回フランス語のテキストを配り、次回の授業時までには和訳できるよう予習を課す。</p> <p>授業時に受講生にフランス語テキストを訳読してもらい、予習の度合いを判定する。毎回授業の終わりに次回のテーマを予告し、その予習を促す。また授業中それまで扱った内容に関連した質問をし、その解答を見て復習の度合いを評価する。</p>						
履修上の注意	フランス語の読解力がある程度身につけている学生を対象にする。訳読だけでなく、討論も同時に行うので、積極的な授業参加を期待する。意欲のある学生なら、2年次生の受講も認める。						
質問、相談への対応	原則として毎週火曜日の昼休み(12時10分～12時50分)をオフィスアワーとする。それ以外はメール(mayoshi@shinshu-u.ac.jp)で対応する。						
教科書	教科書は使用しない。随時プリントを配布して進める。						
参考書	<p>・ジャン・ルースロ『フランス詩の歴史』、露崎俊和訳、文庫クセジュ、白水社、1993年(980円)</p> <p>その他は、随時授業中に紹介する。</p>						

登録コード	L2340300	開講年度	2022				
担当教員	吉田 正明		副担当				
授業科目	フランス言語文化発展演習						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限
講義室	人文401演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・フランス文学作品の読解を通して、異文化理解を深め、多角的に判断する力を身につける。</p> <p>(3)【授業のねらい】 フランス文学作品の精読を通してフランス文学の特質を理解し、フランス語の読解力を身につけるとともに、異文化理解を深め、多角的な判断力を養っていく。</p>						
授業の概要	ヴェルレーヌ詩を読んでいく。まず19世紀後半のフランス詩の状況を確認し、ヴェルレーヌ詩がどのような文学状況のもとに書かれたかを理解したうえで、彼の代表的な詩を取り上げ、それを精読しフランス語の読解力を鍛えていく。						
授業計画	<p>1回 19世紀後半のフランス詩の状況</p> <p>2回 ヴェルレーヌの生涯について</p> <p>3回 『土星人の歌』読解</p> <p>4回 "</p> <p>5回 『艶なる宴』読解</p> <p>6回 "</p> <p>7回 『よき歌』読解</p> <p>8回 "</p> <p>9回 『言葉なき恋歌』読解</p> <p>10回 "</p> <p>11回 ランボーの影響</p> <p>12回 『叡智』読解</p> <p>13回 "</p> <p>14回 「詩法」について</p> <p>15回 ヴェルレーヌ詩の音楽性について 授業アンケート 期末レポートの提出</p> <p>期末試験は行わない。レポートを提出してもらう。</p>						
成績評価の方法	フランス語の訳読・読解及び討論内容(50%)、期末レポート(50%)を総合して評価する。						
成績評価の基準	<p>1) 毎回フランス語の予習を求め、その訳読及び討論内容を評価する。予習が十分なされその訳読が「卓越している」46~50点、「かなり上にある」41~45点、「やや上にある」36~40点、「合格の水準にある」30~35点、「予習が不十分」30点以下)満点50点。</p> <p>2) 期末レポートに関しては、問題の設定が適切である。論旨が明快である。参考文献が有効かつ適切に参照されている。文章表現が適切かつ説得力がある。結論が適確に導かれている。適切な参考文献が挙げられている。自分の見解が示されている。</p> <p>以上6項目すべてに当てはまれば「卓越している」46~50点、5項目に当てはまれば「かなり上にある」41~45点、4項目に当てはまれば「やや上にある」36~40点、3項目に当てはまれば「合格の水準にある」30~35点と判定する。満点50点。</p> <p>以上を総合して評価する。満点100点。</p>						
事前事後学習の内容	毎回予習用のプリントを配布し、事前学習を課す。討論の準備に必要な復習並びに下調べの課題を出す。						
履修上の注意	フランス語の読解力がある程度身につけている学生を対象にする。受講生による訳読だけでなく討論も行うので、積極的な授業参加が求められる。意欲のある学生なら、2年次生の受講も認める。						
質問、相談への対応	原則として毎週火曜日の昼休み(12時15分~13時)をオフィスアワーとする。それ以外はメール(mayoshi@shinshu-u.ac.jp)で対応する。						
教科書	教科書は使用しない。プリントを配布して進める。						
参考書	授業中随時紹介していく。						

登録コード	L2430200	開講年度	2022				
担当教員	SPREADBURY ASH LEIGH			副担当			
授業科目	英語学特論						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「意味」と「文法」という概念を問い直す中で新たな思索力を得られるようになる</li> <li>・英語とその他の言語について学ぶことで、日本語を含めた様々な言語現象について分析できるようになる</li> <li>・一般的な社会・認知能力と言語との関係を説明できるようになる</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>言語における「意味」と「文法」に関する理解を深め、ヒトの言語知識のあり方に関する知識を身につける。</p>						
授業の概要	<p>本科目では、語彙・文法に関連する様々な現象について学ぶことで、認知言語学の基本的な言語観を身につける。ことばを話すためにどのような知識を持っていなければならないのか。その知識はどのように習得されるのか。言語知識と一般的な認知能力はどのように関係しているのか。身近な言語現象を取り上げながらこのような問いについて考えていく。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション：認知言語学とは？</p> <p>第2回：世界の捉え方</p> <p>第3回：カテゴリーのあり方</p> <p>第4回：そもそも「意味」とは？</p> <p>第5回：比喩：メタファー</p> <p>第6回：比喩：メトニミー・シネクドキ</p> <p>第7回：語の意味変化</p> <p>第8回：多義語の意味記述</p> <p>第9回：語から文へ</p> <p>第10回：文法の立ち上がり・存在意義</p> <p>第11回：文法マーカー・文法的カテゴリー</p> <p>第13回：多動性</p> <p>第14回：文法化</p> <p>第14回：日英対照研究</p> <p>第15回：学期末まとめ、授業アンケート</p>						
成績評価の方法	<p>1. 平常点：40%</p> <p>2. 中間レポート：30%</p> <p>3. 期末レポート：30%</p>						
成績評価の基準	<p>「やや上にある」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解している。</p> <p>「かなり上にある」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解し、自ら関連する問題を発見することができる</p> <p>「卓越している」： 授業内で示された「語彙」「文法」の現象について不足なく理解し、自ら関連する問題を発見した上で、授業内で提示された知識を応用することができる</p>						
事前事後学習の内容	<p>事前学習として次に扱う章を予習する。事後学習として授業で学んだ内容を整理し、レポートにつながるように関連する問題を考える。</p>						
履修上の注意							
質問、相談への対応	水曜日12:15-13:00						
教科書	野村益寛(2014)『ファンダメンタル認知言語学』ひつじ書房						
参考書	John R. Taylor (2012). The Mental Corpus: How Language is Represented in the Mind. Oxford University Press. [西村義樹他(訳) (2017)『メンタル・コーパス：母語話者の頭の中には何があるのか』くろしお出版].						

登録コード	L2532600	開講年度	2022				
担当教員	趙 泰昊	副担当					
授業科目	英語文学特論						
授業タイトル	他者表象から見る中世英文学						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限	
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の英文学作品に描き出されている様々な「他者」を通して、現代の国籍や人種、ジェンダーといった問題を再検討することができるようになる。</li> <li>・人間集団において他者とは恣意的な選択や基準によって区別されているということを理解し、そうした区別に基づく差別構造がいかに不当なものであるかを議論できるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数世紀にわたって英語で書かれてきたテキストとその多様性を学ぶことで、新たに文学作品を学ぶ意義を問い直す。</li> <li>・歴史的な出来事が言語に与えた影響を学び、実際にその時代にその言語で書かれたテキストを確認しながら当時の社会的・文化的現象がどのように反映されているかを確かめる。</li> </ul>						
授業の概要	授業では主に後期中世の英語で書かれたテキストを扱う。英語史で学ぶ英語の変化の過程を踏まえ、実際のテキストを精読することで、その実情を確認する。また、テキストに表れる社会変化や文化的事象の影響を読み解き、言語の変化と歴史的背景との関わりを考察する。						
授業計画	<p>授業計画(2時間×15回分)</p> <p>1回：オリエンテーション</p> <p>2回：外国語文学と他者としての「中世」</p> <p>3回：ヨーロッパ世界における他者表象の伝統</p> <p>4回：宗教・人種的他者の表象 (1)：異教徒の表象伝統</p> <p>5回：宗教・人種的他者の表象 (2)：改宗と疑い</p> <p>6回：宗教・人種的他者の表象 (3)：前近代のヨーロッパにおける「人種」</p> <p>7回：宗教・人種的他者の表象 (4)：東西の交流とpassing</p> <p>9回：階級による区分 (1)：「氏か育ちか」</p> <p>10回：階級による区分 (2)：旅する商人の他者性</p> <p>11回：Monster論 (1)：怪物文化の伝統</p> <p>12回：Monster論 (2)：怪物の役割</p> <p>13回：他者とジェンダー (1)：FeminismとAnti-misogyny</p> <p>14回：他者とジェンダー (2)：ジェンダーロールの転覆</p> <p>15回：授業総括+授業アンケート</p> <p>期末試験なし(レポート課題)</p> <p>*学生の予習状況および授業進度によって予定は変更されることもあり得る。</p>						
成績評価の方法	授業参加度(予習状況およびディスカッション)を40%、学習内容の確認テストおよび期末課題を60%として評価する。						
成績評価の基準	<p>授業で扱うテキストの内容およびディスカッションの内容について十分に理解し、事前に調べた内容を発表できることを「基準を満たす」と評価する。</p> <p>テキストの内容を正確に理解した上で、用いられている語彙や現象を英語史や背景的な事象と結びつけて考察し発表できることを「やや上にある」と評価する。</p> <p>テキストの内容や授業中の議論を踏まえ、参考文献などで調べた内容を具体例をもって提示できる時「かなり上にある」と評価する。</p> <p>教科書や授業で扱った事例を踏まえて、参考文献の内容と比較考察し、内容の批評や補足など独自の視点を持ち、具体例をもって提示できる時「卓越している」と評価する</p>						
事前事後学習の内容	<p>一方的な講義形式ではありませんので、各回の授業で扱う範囲の予習および、ディスカッションの準備が事前学習が必要となります。作品の読解では基本的に日本語訳を使用しますが、原文の確認においてはOxford English DictionaryやMiddle English Dictionaryなどを利用して、予習を進めること。また予め指定された議題について、テキストの内容を踏まえて、自身の考えをまとめることを事前予習とします。</p> <p>また、授業後には各回で議題となった内容について更に調べ、英語史や社会・文化背景と結びつけ、まとめることを事後学習とします。</p>						
履修上の注意	<p>英語史 および を受講していることが望ましいが、履修していなくても受講は可能です。</p> <p>初回に詳しい計画表を配布するとともに、授業の進め方を説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。追試や特別課題などの救済措置は、教育実習や介護実習、忌引きや病気などの特段の理由のある欠席以外はいっさいありません。</p>						
質問、相談への対応	質問、相談は授業後の時間やメールで受け付けます。連絡先は授業内でお知らせします。						
教科書	適宜資料を指示・配布します。						
参考書	<p>J・ル＝ゴフ『時代区分は本当に必要か?』(藤原書店、2016)</p> <p>A. J. Minnis, Chaucer and Pagan Antiquity (D.S.Brewer, 1982)</p> <p>Cord J. Whitaker, Black Metaphors: How Modern Racism Emerged from Medieval Race-Thinking (U of Pennsylvania P, 2019)</p> <p>Carolyn P. Collette, The Legend of Good Women: Context and Reception (D.S. Brewer, 2006)</p> <p>Nicholas Perkins, Medieval Romance and Material Culture (D.S. Brewer, 2015)</p> <p>Neil Cartlidge, Heroes and Anti-Heroes in Medieval Romance (D.S. Brewer, 2018)</p> <p>Jeffrey Jerome Cohen, Monster Theory: Reading Culture (University of Minnesota Press, 1996)</p> <p>Stephen T. Asma. On Monsters: An Unnatural History of Our Worst Fears (Oxford UO, 2011)</p>						

登録コード	L2541500	開講年度	2022				
担当教員	杉野 健太郎		副担当				
授業科目	英語文学発展演習						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	
講義室	人文第3講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> <li>・ 変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力</li> <li>・ 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> <li>・ 異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力</li> <li>・ 他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー</li> <li>・ グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力が身につきます</li> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力が身につきます</li> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力が身につきます</li> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に異質・多様なものを理解し、寛容かつ多元的に判断することができる受容力が身につきます</li> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基に他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシーが身につきます</li> <li>・ ジョイスの小説を通して、アイルランドの100年ほど前の時代のダブリンの人々の文化を理解し、それを基にグローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力が身につきます</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本の現在とは異なる文化の100年ほど前のアイルランドの作家ジェイムズ・ジョイスの短編小説を読むことによって、小説の研究方法を学びます。 In foreign studies, you will learn how to precisely and closely read and process foreign-language texts. The aim of this course is to allow you to work with literary texts in English, to analyze them to reach conclusions, and to express them effectively in your presentation and writing.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. You shall become capable of working with relatively reader-friendly texts with precision.</li> <li>2. You shall acquire basic research skills for English literature and culture.</li> <li>3. You shall become capable of expressing the results of your analysis effectively in presentation and writing.</li> </ol>						
授業の概要	<p>ジョイスの短編集『ダブリンの人々』をゆっくり読みます。 James Joyce (1882-1941), an Irish-born novelist who lived most of his adult life outside Ireland, is one of the most prominent 20th century authors in the world. He contributed to modernist avant-garde movement through his representation of modern lives by innovative literary techniques such as stream of consciousness.</p> <p>Dubliners is a collection of his early fifteen short stories published in 1914. They present a naturalistic depiction of Irish middle class life in Dublin, the Irish capital, in the early years of the 20th century.</p> <p>Dubliners will be taken up in this course. The primary course activity is to analyze precisely some of the short stories, along with the instructor's explications and class discussion. Students must read and discuss the material in class and are highly recommended to speak in English. Incidentally, this course is recommended for every student because the English itself is not very tough.</p>						
授業計画	<p>今年度は社会生活 (public life) を (ただしThe Dead除く) ゆっくり読みます。他の短編は自分で読んでおいてください。 *Dublinersの区分: 子ども期childhood: The Sisters, An Encounter, Araby // 青春期のひとadolescent: Eveline, After the Race, Two Gallants, The Boarding House // 成熟maturity: A Little Cloud, Counterparts, Clay, A Painful Case // 社会生活public life: Ivy Day in the Committee Room, A Mother, Grace, The Dead</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.Orientation</li> <li>2.Ivy Day in the Committee Room 1</li> <li>3.Ivy Day in the Committee Room 2</li> <li>4.Ivy Day in the Committee Room 3</li> <li>5. Ivy Day in the Committee Room 評論</li> <li>6. A Mother 1</li> <li>7. A Mother 2</li> <li>8. A Mother 3</li> <li>9.A Mother 評論</li> <li>10.Grace 1</li> <li>11.Grace 2</li> <li>12.Grace 3</li> <li>13.Grace 評論</li> <li>14.まとめ</li> <li>15.試験 (英語について) 授業アンケート</li> </ol> <p>* During the first class, a more detailed course schedule will be decided on and distributed.</p>						
成績評価の方法	<p>In-class activities 30% Exam 40% Short semester paper 30% *Attending 10 times is the minimum required for a grade.</p>						
成績評価の基準	<p>Five criteria: i) precise and close reading of text, ii) selecting an appropriate topic within the text, iii) consistent argumentation according to the topic, iv) significant conclusion, v) pertinent and effective writing or presentation. Satisfying five or four of the five criteria: S, three: A, two: B, one: C, none: D.</p>						
事前事後学習の内容	<p>Students are required to read the assigned part in advance, reviewing the previous part and the relevant materials. Pre-class assignments are given almost every time.</p>						
履修上の注意	<p>NA Any student except freshers can take this course.</p>						
質問、相談への対応	<p>If you have some questions, please come and ask me after class or at my office. Unmediated talk is desirable over text-messaging and email chats. Make an appointment to confirm our meeting.</p> <p>My office is located on the 4th floor of Faculty of Arts (Jinbun) Building. Office Hour: Tuesday and Thursday lunchtime [12:20-12:50] (other times possible by appointment). Email: sugino@shinshu-u.ac.jp</p>						
教科書	<p>・ James Joyce. Dubliners. Oxford World's Classics. ISBN-10: 0199536430</p>						
参考書	<p>・ 金井嘉彦 / 吉川信編 『ジョイスの罫 『ダブリナーズ』に倣う方法』、言叢社、2016年。 ・ James Joyce: A Literary Companion. McFarland Publishing. 2018. *Other references are listed up in the textbook and to be introduced in class.</p>						

登録コード	L2720200	開講年度	2022				
担当教員	中澤 光平			副担当			
授業科目	日本語学概論						
授業タイトル	日本語の文法、語彙と運用						
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	人文第4講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語という身近な存在に対し、音声学や言語学の知識をもとに客観的な分析ができるようになる。</li> <li>・日本語、日本語学の知識をもとに、広く言語(学)の事象が理解できるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本語には古代から現代までという時間的(歴史的)多様性と方言という空間的(地理的)多様性がある。そのように多様な日本語をどのように分析するかという視点が日本語研究には必要である。この授業では、日本語の体系的、網羅的な分析を通じて日本語学の方法論を学び、論理的な思考力を身につけることを目的とする。</p>						
授業の概要	現代日本語(共通語)を主な対象として、日本語学に関する学術的な概念・用語について解説する。単に丸暗記するのではなく、自ら問題を発見し解決するのに役立つ能動的な知識の習得を目指す。内容は音声・音韻、文字・表記、語彙、文法などに分けて扱うが、相互の有機的な結び付きを意識し多角的な分析が行えるようになることを目標とする。日本語学概論 では文法、語彙、運用(語用)を扱う。						
授業計画	<p>第1回：履修ガイダンス：日本語学の諸問題</p> <p>第2回：日本語の文法(1)：品詞分類</p> <p>第3回：日本語の文法(2)：述語と活用</p> <p>第4回：日本語の文法(3)：助詞と文の構造</p> <p>第5回：日本語の文法(4)：テンス、アスペクト、モダリティー</p> <p>第6回：日本語の文法(5)：格と格表示</p> <p>第7回：日本語の語彙(1)：語と語彙、語種</p> <p>第8回：日本語の語彙(2)：位相語</p> <p>第9回：日本語の語彙(3)：同音異義語と多義語</p> <p>第10回：日本語の語彙(4)：語彙と辞書</p> <p>第11回：日本語の語彙(5)：語彙と共起(コロケーション)</p> <p>第12回：日本語の運用(1)：敬語</p> <p>第13回：日本語の運用(2)：談話分析</p> <p>第14回：日本語の運用(3)：会話の含意</p> <p>第15回：まとめ、授業アンケート</p> <p>定期試験</p>						
成績評価の方法	課題に基づく平常点(50%)と期末試験(50%)の成績をもとに評価する。授業は無遅刻・無欠席が原則である。平常点が半分未満の場合は成績評価の対象としない。						
成績評価の基準	<p>授業内容の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可(その水準にある)」</p> <p>授業内容の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良(やや上にある)」</p> <p>授業内容の全体を理解し表現できる水準への評価は「優(かなり上にある)」</p> <p>授業内容の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀(卓越している)」</p> <p>上記に至らないものは「不可」</p>						
事前事後学習の内容	授業では毎回予習、復習に相当するものとして課題を受講生に課す。授業資料や参考書をもとに各自取り組むこと。						
履修上の注意	履修上の制限は特にないが、前期開講の「日本語学概論I」を履修しておくことを強く推奨する。また、「日本語史」の授業を受講する場合には、事前もしくは同時に、「日本語学概論」を受講しておくのが望ましい。概論であっても難しい内容が一部含まれる。出席するだけでは単位は出ないので、安易な気持ちで受講することのないように注意されたい。						
質問、相談への対応	できるだけ講義が終わった後に質問するように。毎回最後に問題を出すので、そのプリントに質問事項を書いてよい。また、eALPS上に質問箱を設ける。						
教科書	使用せず、毎回プリントを配布する。						
参考書	<p>沖森卓也(編著)(2010)『日本語概説』朝倉書店</p> <p>庵功雄(2012)『新しい日本語学入門ことばのしくみを考える第2版』スリーエーネットワーク</p>						



登録コード	L2730200	開講年度	2022				
担当教員	中澤 光平			副担当			
授業科目	日本語学特論						
授業タイトル	日本語の「語」をめぐる						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限	
講義室	人文212講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語という身近な存在に対し、音声学や言語学の知識をもとに客観的な分析ができるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>言語において「語」（単語）は基本的な単位である一方、一見自明な単位である語をどう定義するかは実はかなり難しい。この授業では、日本語の語をめぐるこれまでの議論を整理し、どのような問題点があるか検討することを通じて、「語」という言語（学）の基本単位の普遍性と特殊性について説明できるようになることを目標とする。</p>						
授業の概要	<p>「日本語には語（単語）がいくつあるか」といった問いは、そもそも語を定義しないことには無意味である。品詞分類も、語の定義なしには成り立たないはずだが、自明とも思える語について正面から議論されることは思いの外少ない。一見重箱の隅をつつくような、しかし実際は極めて重要な問題である日本語の「語」について、表記、理論など様々な観点から論じることで、日本語・日本語学への理解を深めることを目指す。</p>						
授業計画	<p>第1回 「語」とはなにか</p> <p>第2回 語と文字</p> <p>第3回 語と辞書</p> <p>第4回 古代文献からみた語</p> <p>第5回 近代以前の理論に基づく語</p> <p>第6回 近代以降の理論に基づく語</p> <p>第7回 語と品詞分類</p> <p>第8回 語と表記法</p> <p>第9回 語と記号</p> <p>第10回 語と音</p> <p>第11回 語とその他の言語単位（1）</p> <p>第12回 語とその他の言語単位（2）</p> <p>第13回 語はどこまで分析可能か（1）</p> <p>第14回 語はどこまで分析可能か（2）</p> <p>第15回 「語」とはなにか・再考、授業アンケート</p>						
成績評価の方法	<p>課題に基づく平常点（70％）と期末レポート（30％）をもとに評価する。授業は無遅刻・無欠席が原則である。</p>						
成績評価の基準	<p>授業内容の重要事項を不完全ながらも理解し表現できる水準への評価は「可（その水準にある）」</p> <p>授業内容の重要事項を正確に理解し表現できる水準への評価は「良（やや上にある）」</p> <p>授業内容の全体を理解し表現できる水準への評価は「優（かなり上にある）」</p> <p>授業内容の全体を理解したうえで自主的な学習の成果が認められる水準への評価は「秀（卓越している）」</p> <p>上記に至らないものは「不可」</p>						
事前事後学習の内容	<p>授業では毎回予習、復習に相当するものとして課題を受講生に課す。授業資料や参考書をもとに各自取り組むこと。</p>						
履修上の注意	<p>履修上の制限は特にないが、前期と後期に開講される「日本語学概論」も受講するのが望ましい。</p>						
質問、相談への対応	<p>随時受け付けるが、口頭もしくはメールでアポイントメントを取ることを。</p>						
教科書	<p>使用せず、毎回プリントを配布する。</p>						
参考書	<p>影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房</p> <p>宮岡伯人（2015）『「語」とはなにか・再考 日本語文法と文字の陥穽』三省堂</p>						

登録コード	L2820200	開講年度	2022				
担当教員	坂口 和寛			副担当			
授業科目	日本語教育学概論						
授業タイトル	第二言語教育としての日本語教育						
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第二言語として日本語を指導する方法について基礎的事項を理解し、多様化する日本語学習者と日本語教育を分析的に検討し、理解できる。</li> <li>・日本語学習者のアウトプットの意図や言語的問題点を正確に把握し、そのうえでコミュニケーションタスクや言語的説明が適切に行えるような知識とスキルを身につける。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>日本語教師と日本語学習者双方の観点から、第二言語としての日本語を教育することに関する基礎的事項や、日本語教師に必要な能力や資質を、初級授業の内容・構成に沿って理解する。特に"日本語が指導される教室の中で起こっていること"を、教師と学習者のインターアクションに焦点を当てて、自身の学習経験もふまえて客観的に観察できることを目指す。授業目標については、各回の授業内で行う質疑応答や協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	日本語授業や教室活動における教師と学習者の役割や行動、教室内でのインターアクションの特徴を学ぶ。特に教師の行動（フィードバック・発問・解説・言語活動・学習者の発話促進）を中心に、日本語授業の運営を支える教授法や指導技術、日本語教師に必要な日本語力などを理解する。						
授業計画	<p>第1回：履修ガイダンス / 外国人日本語学習者への日本語教育</p> <p>第2回：第二言語としての日本語教育と日本語学習</p> <p>第3回：日本語教育を構成する要素</p> <p>第4回：日本語授業における教師・学習者の役割1（教室活動の種類）</p> <p>第5回：日本語授業における教師・学習者の役割2（インターアクションの種類）</p> <p>第6回：日本語授業の基本的な構成と流れ1（全体的な構成）</p> <p>第7回：日本語授業の基本的な構成と流れ2（導入・説明活動）</p> <p>第8回：日本語授業の基本的な構成と流れ3（練習活動）</p> <p>第9回：文法および語彙の指導とその留意点1（演繹的方法と帰納的方法）</p> <p>第10回：文法および語彙の指導とその留意点2（媒介言語と中間言語）</p> <p>第11回：学習項目分析と日本語教師に求められる日本語力</p> <p>第12回：基礎的な練習と応用的な練習1（パターンプラクティス）</p> <p>第13回：基礎的な練習と応用的な練習2（コミュニケーション言語活動）</p> <p>第14回：日本語指導法と外国語教授法理論</p> <p>第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート）</p> <p>定期試験</p> <p>なお、本授業の計画については、受講学生の理解度により、取り上げるテーマや各回の計画を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。 授業15週の授業への参加度（50%）・授業15週終了後の最終の定期試験（50%） 学期末に行う定期試験（100点満点）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求めます。						
成績評価の基準	授業での質疑応答や討議に積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、試験問題に対して授業で学んだ基本的概念を基に正確かつ論理的に説明できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例を挙げられるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念と具体例を統合的に用いて応用的に説明できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で扱った諸問題が複合的に見られる課題について、具体例を挙げつつ、重要な基本的概念を統合的に用いて応用的かつ発展的に論じられる場合は水準を「卓越している」と判定する。						
事前事後学習の内容	各回の授業内で取り上げたテーマやトピックに関して、発展的に考えたり調べたりすることを求める。また、次回授業で扱う予定の問題を授業内で提示し、自身の経験や意見をまとめることを求める。以上の課題は、授業を行うなかで意見発表や討論に用いるため、印刷して授業に臨むこと（授業終了時に提出）。						
履修上の注意	講義形式の授業だが、受講学生に意見を求める場合がある。誤りかどうかを気にせず自分なりの考えを述べるなど、授業へ積極的に参加してほしい。						
質問、相談への対応	火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。						
教科書	使用しない。授業の中でレジュメや資料などを配布する。						
参考書	授業の中で適宜、紹介する。						

登録コード	L2840100	開講年度	2022				
担当教員	坂口 和寛		副担当				
授業科目	日本語教育学発展演習						
授業タイトル	コミュニケーション重視の日本語教育と教材						
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・3時限	
講義室	人文第5講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人日本語学習者のコミュニケーション能力とその教育に関わる問題や研究課題について、日本語教育の文脈から理解を深め、第二言語としての日本語やその教育・学習を多角的に分析し、理解できる。</li> <li>・外国人学習者対象の日本語教材とそれに関わる文献を批判的かつ分析的に精読し、必要な補足情報を得ながら分析し、日本語教材の意図や内容を正確に理解できる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>第二言語としての日本語の教育・学習に用いられる教科書について日本語学研究成果を手がかりに分析し、教材分析に必要な専門知識と観点を身につける。特に、コミュニケーション能力修得を目指す、CEFRに基づく初級日本語教科書を取り上げ、その特徴や問題点、研究課題、関連する日本語学的概念を深く理解する。そして、日本語教育学研究や日本語学研究成果の批判的解釈と研究遂行に必要な専門知識を身につける。</p> <p>本授業を通じ、日本語教科書の内容や意図を正確かつ批判的に読みとける力や、特質をふまえて教科書を活用する教授スキル、日本語問題を専門的な観点・知識を基に分析できる力を、研究リテラシーとともに向上させていく。授業目標については、各回の授業内で行う発表や質疑応答、協働作業を通じて達成する。</p>						
授業の概要	<p>本授業では、第二言語としての日本語の教育・学習に用いられる日本語教材や関連文献を、背後にある理念や関連研究成果をふまえて精読する。特に、CEFRに準拠した初級日本語教科書を取り上げ、その特徴を教育・学習の両面から分析する。また、教科書の内容や構成、教育的意図を正確に理解するために必要な基本概念や先行研究、研究課題を把握する。それにより、コミュニケーション能力の養成を重視する日本語教育とその教材、関連する日本語学研究成果について理解を深め、日本語支援や研究論文読解、卒業研究遂行に必要な能力と専門知識を身につける。また、先行研究を利用し、授業で扱われたテーマと受講生自身の研究テーマを関連付けてレポート作成ができるよう演習を行う。</p>						
授業計画	<p>授業では、CEFR準拠の代表的な日本語教科書とそれに関連する文献を選定し、受講生が分担して各課の内容とその特徴を解説、批評する。それをふまえて、日本語事象の学習項目としての扱い方を中心に分析や検討を行い、コミュニケーション重視の日本語教科書の特徴を探る。日本語教科書などは、各回の授業で複数の課を取り上げるが、およそ以下に挙げるようなテーマに沿って授業を進める。</p> <p>第1回：履修ガイダンス／日本語教育と日本語教材  第2回：日本語教科書とコミュニケーション能力  第3回：日本語教育におけるCEFRの利活用  第4回：CEFRと日本語教科書  第5回：CEFR準拠の日本語教科書の特徴1（内容と構成）  第6回：CEFR準拠の日本語教科書の特徴2（目標設定と学習利用）  第7回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析1（学習項目の配列）  第8回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析2（語彙）  第9回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析3（文法・文構造）  第10回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析4（表現形式）  第11回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析5（談話・文体）  第12回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析6（コミュニケーション・ストラテジー）  第13回：CEFR準拠の初級日本語教科書の分析7（四技能と日本語）  第14回：CEFR準拠教科書と文法シラバスの教科書の相違点  第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート）  定期試験（レポート）</p> <p>なお、本授業の計画については、受講する学生の理解度や研究内容により、テキストの扱い方や各回の授業計画を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	<p>以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。</p> <p>授業15週の授業への参加度（50％）・授業15週終了後の最終の定期試験（50％）</p> <p>学期末に行う定期試験（レポート）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求めます。</p>						
成績評価の基準	<p>授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例やデータを挙げつつ専門的に論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて応用的に論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>教科書については各回の授業で扱う範囲を事前に精読し、テーマに関する事がらを調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、教科書の担当箇所の概要をわかりやすく簡潔に説明できるような資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。教員によって添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。</p>						
履修上の注意	<p>1)授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2)受講生は、教科書の精読や補足的な下調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3)日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4)意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	<p>火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。</p>						
教科書	<p>『まるごと 日本のことばと文化 初級1 A2 りかい』（国際交流基金、三修社、2014年）  『まるごと 日本のことばと文化 初級2 A2 りかい』（国際交流基金、三修社、2014年）  ほかの日本語教科書も必要に応じて提示し、授業で用いる。また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。また、授業運営に際して必要となる</p>						
参考書	<p>『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク、2012年）  『みんなの日本語 初級（第2版）本冊』（スリーエーネットワーク、2013年）  必要に応じて、授業の中で教科書や文献を適宜、紹介する。</p>						

登録コード	L2840400	開講年度	2022				
担当教員	坂口 和寛		副担当				
授業科目	日本語教育学発展演習						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限	
講義室	人文第5講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育学の文脈での日本語に関する研究課題について理解を深め、研究の知見から、第二言語としての日本語やその教育、学習、習に対して多角的に分析し、理解できる。</li> <li>・日本語教育や関連する領域の研究論文やテキストを批判的かつ分析的に精読し、理解に必要な補足情報を得ながら、テキストの意図や論理展開を正確に理解できる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>第二言語としての日本語の教育・学習を支える教授・学習・習得に関する重要なトピックや概念、理論について、日本語教育学研究や第二言語習得研究を取り上げながら、専門知識と分析観点を身につける。日本語教育や日本語の習得・学習、日本語学習者を扱った研究論文を精読し、テーマや研究課題、それに関連する専門用語や概念を正確に理解する。そして、日本語教育学研究の批判的解釈と研究遂行に必要な専門知識を身につける。</p>						
授業の概要	<p>本授業では、第二言語としての日本語の教育・習得・学習に関わる研究論文を、研究課題の背景にある専門的概念や研究成果を把握しつつ精読する。特に、研究の正確な理解に必要な基本概念や先行研究、問題意識、設定された研究課題に着目する。それにより、日本語学習者に関わる日本語教育学研究について理解を深め、研究論文読解や卒業研究遂行に必要な能力と専門知識を身につける。また、先行研究を利用し、授業で扱われたテーマと受講生自身の研究テーマを関連付けてレポート作成ができるよう演習を行う。</p>						
授業計画	<p>授業では、日本語教育や日本語学習、第二言語習得に関わる研究論文を中心に選定し、受講学生がそれを分担して内容の解説と批評を行う。それをふまえて、研究の手続き的側面を中心に、討論を行う。研究論文は、各回の授業で一編の研究論文を取り上げるが、およそ以下に挙げるようなテーマを中心に扱うこととなる。</p> <p>第1回：履修ガイダンス / 日本語教育学研究で取り上げられるトピックとテーマについて</p> <p>第2回：日本語学習者による日本語の産出（話すこと・書くことの学習と指導）</p> <p>第3回：日本語学習者による日本語の受容（聞くこと・読むことの学習と指導）</p> <p>第4回：日本語教育のための日本語研究（学習者特性に応じた指導項目）</p> <p>第5回：日本語学習者の日本語習得1（学習段階における文法使用の特徴など）</p> <p>第6回：日本語学習者の日本語習得2（言語転移・中間言語など）</p> <p>第7回：日本語学習者の日本語習得3（自律的学習など）</p> <p>第8回：日本語学習者の学習活動1（四技能と日本語学習、など）</p> <p>第9回：日本語学習者の学習活動2（自己評価・相互評価など）</p> <p>第10回：日本語学習者の学習ストラテジー</p> <p>第11回：日本語学習者のコミュニケーションストラテジー</p> <p>第12回：学習者特性と日本語指導（教室活動など）</p> <p>第13回：日本語学習者と異文化間コミュニケーション</p> <p>第14回：多文化理解・多文化共生と日本語教育</p> <p>第15回：まとめ・授業のふりかえり（授業アンケート）</p> <p>定期試験（レポート）</p> <p>なお本授業の計画については、受講生の理解度や研究内容により、取り上げるテーマや文献、各回の内容を変更することがあり得る。</p>						
成績評価の方法	<p>以下の2点とその割合によって、先に挙げた本授業の目標の達成度を測り、評価する。</p> <p>授業15週の授業への参加度（50%）・授業15週終了後の最終の定期試験（50%）</p> <p>学期末に行う定期試験（レポート）では、15回の授業で取り上げた事象について論述を求めます。</p>						
成績評価の基準	<p>授業で行う発表や討議に対して積極的かつ能動的に準備し参加できることに加え、レポート課題に対して適切にテーマを設定し、授業で学んだ研究手法や専門的概念をふまえて論理的に論述できれば、本授業の達成目標の「水準にある」と判定する。加えて、適切な具体例やデータを挙げつつ専門的に論述できるならば水準の「やや上にある」とし、基本的概念とデータを統合的に用いて応用的に論述できるならば水準の「かなり上にある」と判定する。さらに、授業で学んだ事項を統合的に用い、データを用いつつ、応用的かつ発展的に、そして複眼的に論述できる場合は水準を「卓越している」と判定する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>各回の授業で扱われる研究論文については事前に精読し、テーマに関する事柄を調べるほか、疑問点や批判的コメントを準備して授業に臨むこと。また発表担当にあたっては、研究論文の概要をわかりやすく簡潔に説明できるよう資料作成などを行うこと。以上の課題は、授業での発表や討論に用いるため印刷して持参し、授業終了時に提出する。添削された課題については、さらに発展的に調べてまとめることを求める。</p>						
履修上の注意	<p>1)授業の運営方法や報告分担などは学生の履修状況により柔軟に対応する。</p> <p>2)受講生は、教科書の精読や補足的な下調べなどを十分に行い、授業での報告に臨む必要がある。</p> <p>3)日本語教育学に関するテーマで卒業研究を行う学生の受講が望ましい。</p> <p>4)意見の提示や交換を積極的に行うなど、積極的に授業に参加してほしい。</p>						
質問、相談への対応	<p>火曜日の午後12時から午後1時までをオフィスアワーとする。研究室の場所は、人文学部棟の3階。</p>						
教科書	<p>日本語教育学会誌『日本語教育』や第二言語習得研究会誌『第二言語としての日本語の習得研究』、大学紀要などから授業内容をふまえて担当教員が選定した研究論文を用いる。</p> <p>また、授業の中でレジュメや資料などを配布する。</p>						
参考書	<p>授業の中で適宜、紹介する。</p>						

登録コード	L2960700	開講年度	2022				
担当教員	大島 武			副担当			
授業科目	書道芸術						
授業タイトル							
単位数	2			講義期間	後期	曜日・時限	月曜・3時限 月曜・4時限
講義室	人文第2講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東洋の文字や書道芸術が多様な文化のひとつとして理解できるようになる。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>書道の基礎的な技術と見識を身につける。</p>						
授業の概要	仮名や実用書道について、毛筆を中心に平仮名・変体仮名の基本から応用までを学ぶ。						
授業計画	<p>第1回：書写と書道について（eALPSによるレポート及び硬筆課題）</p> <p>第2回：実用と芸術について（eALPSによるレポート及び硬筆課題）</p> <p>第3回：仮名の成立について、漢字仮名交じり文硬筆</p> <p>第4回：仮名の基本用筆</p> <p>第5回：平仮名单体（いろは～）</p> <p>第6回：平仮名单体（ゐのお～）</p> <p>第7回：変体仮名（以路波～）</p> <p>第8回：変体仮名（羅武有～）</p> <p>第9回：連綿（2～4字）</p> <p>第10回：連綿（和歌4行）</p> <p>第11回：連綿（散らし書き）</p> <p>第12回：漢字仮名交じり書</p> <p>第13回：書写の手本（半紙、半切4分の1）</p> <p>第14回：写経</p> <p>第15回：実用書道（のし袋等）</p> <p>授業アンケート実施</p> <p>定期試験：なし</p>						
成績評価の方法	毎回提出する作品（鑑賞の場合はレポート）により、書道の基礎的な技術と見識が身についたかを評価する。						
成績評価の基準	提出課題の水準による。						
事前事後学習の内容	特になし						
履修上の注意	この授業は積み重ねが重要であるから、休まないことが肝要。「書道芸術」を履修しておくことが望ましい。						
質問、相談への対応	授業終了後直接またはメールアドレス：kozan_o@yahoo.co.jp						
教科書	授業内で紹介						
参考書	授業内で紹介						

登録コード	L2961700	開講年度	2022				
担当教員	GRAY DAVID JOHN		副担当				
授業科目	英語ライティング						
授業タイトル	English Writing 2						
単位数	1		講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限	
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素  (2)【授業の達成目標】  (3)【授業のねらい】  By the end of the course students will:  Students will be able to write 200-word essays on daily and academic topics.</p> <p>They will ...</p> <p>1) be able to write with greater organization and clarity  2) write comparative essays  3) develop believable and deep characters and interesting settings  4) plan and compose group writing (in English) and offer suggestions to each other on how to make their writing more descriptive.</p> <p>To help and encourage students to write with greater creativity and depth, displaying their personality and thinking in their writing.</p>						
授業の概要	<p>In both group and individual writing assignments, students will learn some of the skills needed to write descriptively and use figurative language (i.e. similes, metaphors, etc.). Their major assignment will be to plan and write a Character Driven Story. Students will have learned to choose a theme, create believable characters, construct an arc (or plot) as well as and make detailed settings. This will be the major writing project for this course.</p>						
授業計画	<p>Classes 1 to 15 (16)  "Share" means to read out loud and talk about recently completed writing assignments and to receive feedback on that work.  1) Introduction to expectations and course topics: Comparative Essays and Character Driven Stories. A Baseline Writing Assessment: Write about yourself.  2) Share essay on "yourself".  Learn how to use an outline effectively for comparative essay writing and presentations. Begin preparing for a group presentation. Prepare topics for presentation and essay.  3) Continuation of lesson 2. Share essay on "yourself" with a new group. Work on outline and "script" for group comparative presentations.  4) Group Presentations. Feedback. Preparation of (individual) comparative essay.  5) Further preparation of individual comparative essay. Share. Learn how to compare and contrast both verbally (discussions) and in writing.  6) Comparative Essay writing. (Mid-term assignment)  7) Mid-term writing assignment due. (review of writing 1 course): Review descriptive writing and use of figurative language including: metaphors, similes, hyperbole, personification and symbolism.  8) Feedback on midterm "Comparative Essay" assignments. Introduction to writing a Character Driven Story.  Students will plan and develop a short story that is centered around an issue they care using the skills they will learn during classes 9 to 15.  9) Developing a Believable Character: How to make develop interesting characters in your writing. Choosing to write about an issue you care about.  10) Developing a Believable main character (Protagonist) in your story.  11) Developing other Believable Characters in your story (Antagonist, etc.).  12) Describing a scene: Learning how to plan and write a descriptive setting in your writing.  13) Describing a scene continued.  14) Writing a Short story with Believable characters and descriptive settings.  15) Writing a Short Story continued. Explanation of final test.  16) Final Test: reviews the concepts and writing skills taught in the course.  - the Class Reflection Survey</p>						
成績評価の方法	<p>Regular Writing assignments and presentations: 25%  Mid-term writing assignment (comparative essay) 25%  Character Driven Story Preparation ("package") 20%  Character Driven Story: 2nd Draft 20%  Final Test (16th Class) 10%</p>						
成績評価の基準	<p>Comparative Writing:  B "meets expectation" Student makes use of challenging vocabulary and compares and contrasts in a clear and organized fashion.  A - exceeds these expectations.  C - has some of the qualities of a B.</p> <p>2nd half of course: Character Driven Story (C.D.S.)  B - student has well developed characters and well described scenes in their story. The story follows a well planned C.D.S. plot.  A - exceeds B expectations with memorable characters and vivid settings.  C - some elements of B.</p>						
事前事後学習の内容	<p>Students are required to attend class regularly and are expected to participate actively, especially in group work. They must prepare outlines and finish assignments and write final copies in class and as homework. They should use a thesaurus (see recommended materials below) to learn new vocabulary for writing assignments.</p>						
履修上の注意	<p>If absent, students are responsible for finding out what classwork and homework they will need to do by the following class.</p>						
質問、相談への対応	<p>I do not have an office at Shinshu.  I will give my email address in the first class.</p>						
教科書	<p>No textbook. Photocopies or document files will be provided.</p>						
参考書	<p>Recommended:</p> <p>1) electronic Japanese-English dictionary and thesaurus.  2) The book titled "Longman Thesaurus of American English"</p> <p>A thesaurus will define words and give you additional words that have the same meaning. This will help to expand your vocabulary. It uses example sentences to put words in context.</p>						

登録コード	L2962900	開講年度	2022				
担当教員	吉田 正明			副担当			
授業科目	フランス語コミュニケーション中級						
授業タイトル							
単位数	1			講義期間	後期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文401演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・フランス語の学習を通して、フランス文化への理解を深め、フランス語で自らの文化を発信できるようになる。</p> <p>(3)【授業のねらい】 フランス語の運用能力を伸ばしていく。フランス語で簡単な会話や意思疎通ができるようにする。具体的には、実用フランス語検定試験準2級レベルのフランス語運用能力を身につけることが目標である。</p>						
授業の概要	<p>フランス語コミュニケーションに必要な基本技能（正確な発音、聴解力、読み書き、会話能力）を高める。そしてフランス語会話の基本表現を習得し、ネイティブの話す生きたフランス語の聴き取りに慣れ、フランス語の正確な書き取りの練習を積むことで、総合的なフランス語の運用能力を身につける。それにより、これまでに習得した基礎的なフランス語の運用能力の発展、応用をめざす。フランス語の質問に対してフランス語で答えられるよう、毎回フランス語による質疑応答の時間を設ける。また、随時視聴覚教材を活用して生きたフランス語にも触れてもらう。</p> <p>具体的目標としては、6月19日（日）に実施される仏検において3級～準2級合格を目指す。同時に越川マロリ先生のフランス語コミュニケーション上級への基礎固めをする。</p> <p>また交流協定を結んでいるラ・ロッシェル大学、リール大学等への交換留学も視野に入れて、実践的なフランス語会話能力を高めていく。</p>						
授業計画	<p>1回 聴解力アップ その あいさつの練習 2回 聴解力アップ その 社交のフランス語 3回 フランス語の読みのブラッシュアップ その 個人情報の交換 4回 フランス語の読みのブラッシュアップ その 感情表現 5回 ディクテの練習 その 評価のフランス語 6回 ディクテの練習 その 励まし、賞賛、非難のフランス語 7回 日常会話の基本表現の練習 その 義務、必要性、許可、禁止のフランス語 8回 日常会話の基本表現の練習 その 意見、提案、アドヴァイスのフランス語 9回 日常会話の基本表現の練習 その 会話をコントロールする 10回 日常会話の基本表現の練習 その 時間、場所、買い物、観光のフランス語 11回 日常会話の基本表現の練習 その 勤務形態 12回 フリーディスカッション その 13回 フリーディスカッション その 14回 フランス語で物語る その 15回 フランス語で物語る その 「授業アンケート」を実施する。 16回 期末試験（筆記試験及び口頭試験）</p> <p>随時視聴覚教材を有効に活用し、フランス語のコミュニケーション能力を高めていく。 授業で身につけたフランス語力を試すために、受講生には、フランス語検定試験の準2級あるいは3級受験を推奨する。</p>						
成績評価の方法	<p>1) 授業のねらいで示したようなフランス語の運用能力がどの程度身についたかを、授業中の発音、聴解力、読み、ディクテ、作文、ディスカッション、フランス語表現等を見て、総合的に評価する。50%</p> <p>2) フランス語の運用能力の達成度を測る期末試験（筆記試験及び口頭試験）50% 実用フランス語検定試験の結果も考慮する。</p>						
成績評価の基準	<p>以下の規準で評価する。 フランス語の正確な発音、フランス文法の理解度、フランス語の聴解力、フランス語のディクテ、フランス語の作文、フランス語のプレゼンテーション能力のうち、6項目すべてに当てはまれば「卓越している」、5項目に当てはまれば「かなり上にある」、4項目に当てはまれば「やや上にある」、3項目に当てはまれば「合格の水準にある」と判定する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>毎回授業のはじめに前回の授業で学習したフランス語表現を質問すると同時に、フランス語で質疑応答することで事前事後学習を促す。また随時フランス語の課題を出して事前学習を課す。</p>						
履修上の注意	<p>原則として1年次にフランス語を履修した学生を対象とする。</p>						
質問、相談への対応	<p>毎週火曜日の昼休憩（12時15分～13時00分）をオフィスアワーとする。それ以外はメール（mayoshi@shinshu-u.ac.jp）で対応する。</p>						
教科書	<p>使用しない。随時プリントを配布して授業を進める。</p>						
参考書	<p>『フランス語で話す自分のこと、日本のこと』田中幸子・川合ジョルジェット、白水社（2200円＋税） 『ネイティブならこう言う！フランス語会話フレーズ600』Romain Bocquillon＋Shio Asami、語研（1900円＋税） その他は、随時授業中に紹介する。</p>						

登録コード	L2963100	開講年度	2022				
担当教員	KOSHIKAWA MALAURIE		副担当				
授業科目	フランス語コミュニケーション上級						
授業タイトル							
単位数	1		講義期間	後期	曜日・時限	金曜・2時限	
講義室	人文401 演習室						
授業のねらい	<p>(1) 授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー</li> <li>・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力</li> </ul> <p>(2) 【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Les ?l?ves seront capables de comprendre leur interlocuteur ? l'oral.</li> <li>Les ?l?ves sauront comment faire de fa?on tr?s naturelle, au cas o? ils ne comprendraient pas leur interlocuteur.</li> <li>Les ?l?ves seront capables de s'exprimer clairement et se familiariseront pour r?soudre un quiproquo ?ventuel.</li> <li>Les ?l?ves seront capables de maintenir toute leur conversation en fran?ais sur diff?rents sujets.</li> <li>・Les ?l?ves seront capables de comprendre divers documents authentiques et de les restituer ? un tiers.</li> <li>Les ?l?ves seront capables d'?crire en fran?ais.</li> <li>Les ?l?ves se familiariseront avec le travail en ?quipe pour parvenir aux projets pendant le cours.</li> </ul> <p>(3) 【授業のねらい】</p> <p>? travers le sujet "faire la connaissance des autres ?" et un sujet de soci?t? parmi " les moyens de d?placement et la pollution ", " travailler en fran?ais au Japon " ou bien " les ?motions et le stress de la vie quotidienne ", les ?l?ves auront de nombreuses occasions d'utiliser le fran?ais. Les ?l?ves se familiariseront davantage avec les habitudes communicationnelles fran?aises et s'efforceront de s'y habituer pour les r?utiliser de fa?on appropri?e. ? travers l'un des sujets au choix, les ?l?ves ?largiront leurs comp?tences langagi?res. Ce cours permettra ?galement aux ?tudiants ? la fin du trimestre de continuer une conversation uniquement en fran?ais au moins pendant 10 minutes, m?me s'ils rencontrent des difficult?s. Ils devront essayer diverses tactiques pratiqu?es dans le semestre pour parvenir ? leur but communicatif.</p>						
授業の概要	Dans ce cours, les ?tudiants se familiariseront ? diff?rentes expressions en fran?ais selon la m?thode de l'ANL. C'est-?-dire, nous nous focaliserons tout d'abord sur l'oral, ensuite sur la lecture et finalement sur l'?crit; dans le but d'accomplir diff?rents projets individuels, en paires ou en petits groupes. Les ?tudiants se familiariseront et diversifieront leur vocabulaire ? travers les activit?s du cours et des documents. Ils pourront ?galement s'appuyer sur le manuel pour revoir des points de grammaire et de m?tacommunication. Diverses activit?s seront not?es r?guli?rement et donneront la note finale pour ce cours.						
授業計画	<p>1er cours - Explications sur le d?roulement du cours, test de niveau et brise-glace.</p> <p>2?me cours- Activit? pour renforcer les expressions utiles pour communiquer, faire la connaissance des autres 2, ?couter et parler</p> <p>3?me cours - Faire la connaissance des autres, lire</p> <p>4?me cours - Faire la connaissance des autres, ?crire</p> <p>5?me cours - Projet 1 : pr?senter sa ville ou sa r?gion d'origine en 4 minutes minimum</p> <p>6?me cours - Approfondir les nuances d'usage du TU et du VOUS ? travers un document authentique adapt?, mise en pratique ? travers une activit? pour rentrer en contact avec un francophone pour demander quelque chose</p> <p>7?me cours - ?couter et Parler du sujet choisi par les ?tudiants, par exemple : Parler des diff?rents moyens de transport quotidiens</p> <p>8?me cours - Lire un document authentique sur le sujet choisi par les ?tudiants, par exemple :sur les moyens de transport</p> <p>9?me cours - ?crire sur le sujet choisi par les ?tudiants, par exemple: les moyens de transport</p> <p>10?me cours - Projet 2 : faire un questionnaire</p> <p>11?me cours - projet 3 : pr?senter les r?sultats de son questionnaire</p> <p>12?me cours - R?fl?chir sur le sujet choisi par les ?tudiants, par exemple: proposer des fa?ons de r?duire la pollution</p> <p>13?me cours - projet 4 : pr?senter ses id?es aux autres</p> <p>14?me cours - projet 5 : faire et performer une conversation avec un partenaire de la classe</p> <p>15?me cours - Questionnaire de l'universit? sur le cours; Discussions, approfondissements et retour sur les " p?pites "</p> <p>授業アンケート実施</p>						
成績評価の方法	La note finale de chaque ?tudiant reposera sur: Comportement actif en classe et tests (30%); Projets (40%); Conversation (30%) Toute activit? non compl?t?e sans raison valable sera comptabilis?e comme " 0 " dans le calcul total. Les tests seront r?partis chaque semaine pour ne prendre que 5 ? 15 minutes selon les semaines. La r?gularit? et un travail continu des ?l?ves sera attendu pendant tout le semestre. Il n'y aura pas d'examen final, car la note finale repose sur un syst?me de contr?le continu qui repose sur les diff?rents projets et conversations enregistr?es. En cas de retard ou autre manquement sans raison valable, des p?nalit?s seront prises en compte.						
成績評価の基準	フランス語の正しい発音, フランス文法の理解度, フランス語の聴解力, フランス語のディクテ, フランス語の作文, フランス語によるプレゼンのうち, 6項目すべてにおいて優れている場合は「卓越している」, 5項目が達成されていれば「優れている」, 4項目が達成されていれば「やや上にある」, 3項目が達成されていれば「可」, それ以下であれば「不十分である」と評価する。						
事前事後学習の内容	Les ?tudiants devront revoir les expressions pr?sent?es en classe et les points de grammaire ou formulations conseill?es par l'enseignant dans le manuel qui sert de support. Et ils continueront d'utiliser l'application Quizlet pour ?tudier ces expressions. Les ?tudiants devront terminer tous leurs devoirs avant de venir en classe et une moyenne de travail personnel de 1h30 par semaine est conseill?e. Quand il y a un projet en route, plus de temps personnel sera n?cessaire avec un objectif maximum de travail personnel de 45 heures pour le semestre. Les ?tudiants devront lire en fran?ais sur un sujet de soci?t? pour enrichir leur vocabulaire.						
履修上の注意	Si vous avez des questions, posez-les pendant le cours ou entre les cours. Vous pouvez ?galement poser vos questions par mail en fran?ais ou en japonais. Mais ?crivez votre nom, le nom de votre universit? et votre cours dans le mail. Durant le premier cours, les ?tudiants auront la possibilit? de choisir le sujet de soci?t? entre "Les moyens de transport et la pollution?", " travailler en fran?ais au Japon " et " les ?motions et le stress de la vie quotidienne ". Donc selon le choix de la majorit?, les semaines de cours li?es aux "?moyens de transport?" seront adapt?es. Merci de votre compr?hension.						
質問、相談への対応	Ms.koshikawa@gmail.com Tout message envoy? dans les r?gles de la politesse recevra une r?ponse.						
教科書	Conversation et Grammaire, de Mitsuru Ohki, Jean-Luce Azra et Bruno Vannieu(wenhuyse), Alma ?diteur.						
参考書	Des documents authentiques seront partag?s en classe par l'enseignante. Mais pour les ?l?ves inquiets, vous pouvez vous procurer le manuel recommand? ci-dessus						



登録コード	L2963300	開講年度	2022				
担当教員	LI DANDAN		副担当				
授業科目	中国語コミュニケーション中級						
授業タイトル	中国語コミュニケーション中級						
単位数	1		講義期間	後期	曜日・時限	水曜・2時限	
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素 ・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</p> <p>(2)【授業の達成目標】 ・中級レベルの中国語リスニング及び会話・作文ができるようになること。</p> <p>(3)【授業のねらい】 毎回の授業での蓄積を通じて、中国語のリスニングと実践的な会話・作文能力をよりアップすること、中国（人）に対する理解をより深めること。</p>						
授業の概要	<p>テキストに沿って場面に分けた会話を取り上げ、実際に使われている中国語を学びます。          毎回授業の最初の15分～20分は復習、講師と会話・作文練習をします。          出てきた単語の使い方や文法を学習者の理解を確認しながら説明します。          中国事情、行事、中国人の考え方などについても適宜紹介します。          必要に応じてテキスト以外の音声資料を使用し、リスニング、会話能力をトレーニングします。</p>						
授業計画	<p>第1回 第十五課 運動会          第2回 第十六課 孔子廟を参拝する          第3回 第十七課 スピーチコンテスト          第4回 第十八課 農家を訪問する          第5回 第十九課 テスト          第6回 第二十課 コートをかう          第7回 第二十一課 忘年会          第8回 第二十二課 道を尋ねる          第9回 第二十三課 九寨溝          第10回 第二十四課 兵馬俑          第11回 第二十五課 就職活動          第12回 第二十六課 カラオケ          第13回 第二十七課 お祝い          第14回 第二十八課 見送り          第15回 復習          第16回 テスト          授業アンケート実施</p>						
成績評価の方法	<p>授業中の発表で以下を確認します（授業中に指名します）。（5割）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発音</li> <li>・リスニング能力</li> <li>・会話・作文能力</li> </ul> <p>暗唱小テスト（1割×2回）          期末テスト（2割）          基礎点（1割）</p>						
成績評価の基準	<p>授業中の発表について          [水準レベル]指導を受けながら正しい発音と聞き取りができる。          [やや上]学んだ内容を指導なしで正しい発音と聞き取りができる。          [かなり上]上記に加え、学んだものを応用し、ある程度中国語でコミュニケーションができる。          [卓越]指導なしで正しい発音と文法を使って、学んだ内容を応用しながら自由に中国語でコミュニケーションができる。</p> <p>小テストについて          [水準レベル]ヒントを得ながら、指定した文章を暗唱できる。          [やや上]ヒントなしで、指定した文章を暗記できる。          [かなり上]上記に加え、きれいな発音で暗記できる。          [卓越]上記に加え、自然な口調で流暢に暗唱できる。</p> <p>期末テストについて          [水準レベル]問題の6割正解する。          [やや上]問題の7割正解する。          [かなり上]問題の8割正解する。          [卓越]問題の9割以上正解する。</p> <p>基礎点について          欠席、授業中の居眠りなど、不適切な行動がある場合は、一回につき2点減点する。</p>						
事前事後学習の内容	<p>・学習した内容を整理し、発音練習と暗唱を中心に復習してください。</p>						
履修上の注意	<p>・受講者の専攻コースは問いませんが、基礎中国語の既習者に限ります。          ・時間をかけて復習を行ってください。</p>						
質問、相談への対応	<p>授業前後に対応します。          その時間以外の場合はlidandan@shinshu-u.ac.jpへメールするか、電話してください。</p>						
教科書	『たのしくできる We can!中国語 中級』徐送迎著、2013年、朝日出版社、2,400円（税別）						
参考書	特にありません。						

登録コード	L2963700	開講年度	2022				
担当教員	VAN DEN BERGH PETER CHARLES		副担当				
授業科目	英米文化事情						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・2時限	
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力</li> <li>・過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> <li>・異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>・情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー</li> <li>・グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> <li>・領域横断的な事柄に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英文化それぞれの要素に触れ、分析することにより学習における焦点を批判的に読み取り、文章の過程を示すことができるようになる。</li> <li>・ null</li> <li>・ null</li> <li>・ null</li> <li>・ null</li> <li>・ null</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>このコースでは英文化を批判的に捉え、より理解できるようになる事をねらいとしている。芸術、政治、社会、歴史など、多様な英文化の導入やそれらに触れる事に加え、批判的な考えで物事を見る事の重要性を学習することもねらいとしている。</p> <p>This course aims at students being able to critically look at - and better understand - elements of English cultures. Besides exposing and introducing students to different elements of English cultures (arts, political, social, historical), this course aims at giving students an awareness of the importance of critical viewing.</p>						
授業の概要	<p>まず、生徒たちは批判的な思考と意味のある知識についての導入を学ぶ。この学習を踏まえ、多様な英文化の分析をし、読解のスキルを上げ、一般的な捉え方のさらに向こう側について読み解く。映画、音楽、ビジュアルアート等を分析し、その要素がどう表現しているのか、どう伝達しているのかを見ていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ映画はカラーと白黒を使用するのか？それはどういう意味なのか？</li> <li>・ポップカルチャーは表現に乏しい事を暗示しているのか？</li> <li>・ボブ・ディラン、トム・ペイヴ、ジョン・レイドロン (sex pistols) などの歌えない歌手はなぜ音楽界でのアイコンを獲得しているのか？</li> </ul> <p>このような読解の訓練をしていく中で、敏感な視点で文化的要素を見とるその真の面白みが見えるということが分かるようになる。</p> <p>学期終盤には、単独または小グループで選んだトピックでのプレゼンテーションも予定している。</p> <p>At first, students will be introduced to what critical thinking and sensitive perception means. With this definition in mind, we will then analyze different elements from English cultures in class and thus improve our "reading" skills and go beyond what one commonly understands from those elements. We will analyze movies, music, visual art, etc. and try to see how those elements express, and what it is they convey.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Why does a movie use both colour and black and white? What does that mean?</li> <li>・ Does pop culture imply a less meaningful form of expression?</li> <li>・ Why do "singers who cannot sing", such as Bob Dylan, Tom Waits, John Lydon (sex pistols) etc. have an iconic status in the music world?</li> </ul> <p>Through such "reading" practice, students will become more aware of the importance of looking with a sensitive eye in order to see the actual richness of cultural elements. Towards the end of the semester students (in small groups) will then give a presentation on a topic of their choice.</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Intro and orientation</li> <li>2. sensitive perception and the Critical mind</li> <li>3. Cultural element (1) Social weight of music/film in the UK (Pink Floyd; The Wall)</li> <li>4. Cultural element (2) American independent film</li> <li>5. Cultural element (3) David Bowie</li> <li>6. Cultural element (4) Canadian film</li> <li>7. Cultural element (5) Literature and film (A Clockwork Orange)</li> <li>8. Cultural element (6) Literature and film (A Clockwork Orange)</li> <li>9. Cultural element (7) Compare Francis Bacon paintings with Bertolucci's Last Tango in Paris</li> <li>10. Cultural element (8) Compare Francis Bacon paintings with Bertolucci's Last Tango in Paris</li> <li>11. Students' presentations, free topic</li> <li>12. Students' presentations, free topic</li> <li>13. Students' presentations, free topic</li> <li>14. Students' presentations, free topic</li> <li>15. Evaluation</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ the Class Reflection Survey</li> </ul>						
成績評価の方法	<p>1 - 授業への出席率； 授業内でのディスカッションで積極的な参加をする 50% 質問や感想を言う事で積極的な参加をすること。</p> <p>2 - プレゼンテーション 50%</p> <p>1- Participation in class through; The level of active participation in class discussions counts for 50%. Students get the gross amount of the 50% from actively engaging in class by asking questions and /or making comments.</p> <p>2- Students' presentation (50%)</p>						
成績評価の基準	<p>授業への参加：積極的な授業への参加と小アサインメント 毎週、生徒は文章や映画などを読むように誘われる。それが翌週授業内で分析やディスカッションする題材となる。題材については授業前に短い評価を書く事ができる。評価は批判的な疑問や、文化的要素が伝達しようとしていることに対しての提案、そしてこの短い評価を書く事で、授業内でのディスカッションに備えられる。</p> <p>プレゼンテーション 学期の終盤に、単独または2-3人のグループで英文化の要素を自由に選んだ内容でプレゼンテーションをする。45-90分のプレゼンテーションを構成し、要素の分析や授業内での気づきについて発表する。発表時間は参加人数により変更の可能性有。</p> <p>生徒への評価はデータ収集をいかにできているか、文化的要素の理解度をいかにコメントで示せるか、そして自問しているかで見える。</p> <p>A: 理解したうえで情報が多く提示されているか。批判的な疑問を多く持ち、理解しようとしているか。 B: 理解したうえで情報が十分か。批判的な疑問を十分に持ち、理解しようとしているか。 C: 理解したうえで情報が十分か。批判的な疑問をいくつかが持ち、理解しようとしているか。 D: いくつかが理解したうえで情報が提示されているか。批判的な疑問を少し持ち、理解しようとしているか。 E: 理解したうえで情報が提示されているか。批判的な疑問を少し持ち、理解しようとしているか。 F: 理解したうえで情報が提示されているか。批判的な疑問を少し持ち、理解しようとしているか。</p> <p>*Participation in class: Actively engaged in class and small assignments. Each week the students will be given texts, a movie, etc. which will be the subject of analysis/discussion the next week. The students are required to write a small evaluation on that subject beforehand. This evaluation can be in the form of (critical) questions, suggestions on what the cultural element is trying to convey, or specific points that caught the student's interest. This written evaluation will aid the students in the class discussion.</p> <p>*Students' presentation: Towards the end of the semester, student, individually or in small groups (2,3 students), freely choose any element of English cultures. They analyze the element and then present their findings in class in the form of a 45 min.-90 min. presentation.</p> <p>The basis of the grading lies in how well students gather data, show an understanding of the studied subjects by form of comments or insights, and/or the way students come up with questions in order to better understand the studied subject. A: A great amount of information is understood and given. A great amount of critical questions guided the learning/analyzing process. B: A good amount of information is understood and given. A good amount of critical questions guided the learning/analyzing process. C: A good amount of information is understood and given. Some critical questions guided the learning/analyzing process. D: Some information is understood and given. Little to no critical questions guided the learning/analyzing process. E: Little to no information is understood and given. Little to no critical questions guided the learning/analyzing process.</p>						
事前事後学習の内容	<p>毎週： 毎週の授業のトピック/題材について学習し、質問、意見、興味を評価メモにしておくこと。 評価メモは短くても長くても構わないが、トピック/題材についてよく考えること。</p> <p>1学期に一度： 英文化要素を一つ選び、小グループで分析した結果をクラス全体とプレゼンテーションで共有する。プレゼンテーションは35分。</p> <p>On a weekly basis: Students are expected to prepare for the following class by "studying" the topic/subject of the next week's lesson. They should put their questions, opinions, interests on the subject into writing in the form of a very small written evaluation. This evaluation can vary in size and is aimed at getting students familiar with the subject matter before we analyze the subject together in class.</p> <p>Once per semester: Students should look for and choose an element of an English culture. After analysis conducted in small groups, they should then share their findings with the rest of the class in form of an approximately 20 min. presentation.</p>						
履修上の注意	<p>文化要素を楽しむ、知識欲になること！ 食文化に触れ、英文化だけでなく世界の文化に触れる経験をさせる機会が1, 2学期に一度授業外である。 授業評価には直接関係しないため、食文化体験を希望する者のみで参加すること。</p> <p>Enjoy the cultural elements and be inquisitive! Students will have the opportunity, once or twice a semester, to participate in an epicurean study circle. These are meetings held in our free time. They involve exploring the world of taste experiences. The relevance to the course is that the same critical approach will be the guiding thought. Joining this study circle is not at all obligatory and is just intended as an extra opportunity to experience elements of foreign cultures. (Not necessarily English cultures!!!)</p>						
質問、相談への対応	<p>petervdb@shinshu-u.ac.jp Office hours; Monday afternoon 13:00-15:00, Thursday 15:00-16:00, or make an appointment.</p>						
教科書	Will be provided in class.						
参考書	Will be provided in class.						

登録コード	L2963500	開講年度	2022				
担当教員	間 小妹		副担当				
授業科目	中国語コミュニケーション上級						
授業タイトル							
単位数	1			講義期間	後期	曜日・時限	木曜・4時限
講義室	人文202演習室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素  (2)【授業の達成目標】  (3)【授業のねらい】  中国近代史、現代事情を理解しながら中国人の日常会話を聞き取れるようになることをねらいとする。  毎回の授業での蓄積を通じて、授業目標を達成する。</p>						
授業の概要	中国の現代小説『戸口本』を読む。毎回単語を調べ、本文の朗読をして、それから各自で和訳を発表する。						
授業計画	<p>受講生の希望によって分担を決める。前期では、本文を読みながら、日本語に訳す練習をする。</p> 第1週 新単語、朗読 第2週 本文の和訳 第3週 文法、慣用句の復習 第4週 新単語、朗読 第5週 本文の和訳 第6週 文法、慣用句の復習 第7週 新単語、朗読 第8週 本文の和訳 第9週 文法、慣用句の復習 第10週 新単語、朗読 第11週 本文の和訳 第12週 文法、慣用句の復習 第13週 新単語、朗読 第14週 本文の和訳 第15週 文法、慣用句の復習 授業アンケート実施						
成績評価の方法	授業への積極的参加度4割と毎回の朗読、和訳の完成度6割による。						
成績評価の基準	指定された範囲の内容について明確な日本語で、詳細に説明を述べることができれば卓越している。説明を大体述べる事が出来たらその水準にある。						
事前事後学習の内容	作品の本文朗読を練習し、語彙の習得をしなければならない。						
履修上の注意	最初の授業にガイダンスをしますので必ず来てください。 受講生は毎回本文の朗読、訳文を作成しておく。						
質問、相談への対応	質問や相談があれば、木曜のお昼（14時～15時）に研究室に来てください。メールで予約も出来ます。						
教科書	発音がついている資料を渡します。						
参考書	『中国の近代を問うー歴史・記憶・アイデンティティ』孫江著（汲古選書2014/7） 『近代中国の宗教・結社と権力』孫江著（汲古叢書2012/6）						

登録コード	L2964100	開講年度	2022				
担当教員	島崎 朋子		副担当				
授業科目	東洋文化事情						
授業タイトル							
単位数	2		講義期間	後期	曜日・時限	月曜・5時限	
講義室	人文第1講義室						
授業のねらい	<p>(1)授業で得られる「学位授与の方針」要素</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力</li> <li>異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力</li> <li>グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力</li> </ul> <p>(2)【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近現代中国文化圏において形成された文学や表象芸術、またそれらを素材とした映像作品に触れることにより、そこに描かれる文化・社会およびその歴史的背景について理解を深めるとともに、未来への展望を考える。</li> <li>近現代中国語圏における多様性をもった異文化に触れ、またそれを多角的に理解し受容する力を高める。</li> <li>近現代中国語圏の文化に関するテキストや表象芸術に触れ、それを読み解くことで、情報を適切に分析し自己の考えを表現するメディアリテラシーを養う。</li> </ul> <p>(3)【授業のねらい】</p> <p>中国語圏の文芸、映像作品、サブカルチャーに触れることで、芸術表現の背景にある現代社会の諸相に対する認識を深め、多様性をもった異文化を理解し、多角的に受容する力を養います。</p> <p>また関連する資料・作品を読み解くことによって、情報を適切に集約・分析するリテラシーを養い、また授業での課題発表や意見交換を通じて、他者の考えを理解し、自分の考えを的確に表現するコミュニケーション力を養います。</p>						
授業の概要	<p>中国語文化圏において21世紀以降に登場した文学・芸術・サブカルチャーを中心に取り上げ、その歴史的背景や言語事情、新たなメディア表現と社会について考えます。</p> <p>テーマに沿った講義、映像資料の視聴および作品・資料の読解や解説を行います。</p> <p>その後、受講学生相互の意見交換および課題の発見とまとめ、学生個人によるレポート提出といった順序で授業を進めます。</p> <p>各テーマは授業4～5回、セクション終了毎に、そのテーマについてのミニ・レポートの提出を求めます。各回のレスポンスシート等で提起された内容は、次の授業時間までにフィードバック・共有します。疑問点や自分なりの意見などを記述することにより、授業内外で得た知識や情報を整理すると同時に、他の受講者の考えや問題提起を共有し、問題解決の方向を探ります。</p>						
授業計画	<p>講義および資料講読のほか、映像資料の視聴と解説、意見発表や意見交換の機会を設け、毎回レスポンスシートの提出を課します。中間レポート2回（第6・第10回前後）、期末に最終レポートを課します。</p> <p>第1回：概説、中国および周辺地域の文学と映像作品（1）</p> <p>第2回：中国および周辺地域の文学と映像作品（2）</p> <p>第3回：言語・文化の多層性（1）</p> <p>第4回：言語・文化の多層性（2）</p> <p>第5回：言語・文化の多層性（3）</p> <p>第6回：言語・文化の多層性（4）</p> <p>第7回：記憶の継承と発展（1）</p> <p>第8回：記憶の継承と発展（2）</p> <p>第9回：記憶の継承と発展（3）</p> <p>第10回：記憶の継承と発展（4）</p> <p>第11回：越境する文化表象（1）</p> <p>第12回：越境する文化表象（2）</p> <p>第13回：越境する文化表象（3）</p> <p>第14回：越境する文化表象（4）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>以上は目安であり、授業の進行状況に応じて適宜調整する可能性があります。</p>						
成績評価の方法	<p>以下により総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)授業各回の意見発表およびレスポンスシートの内容（30%）</li> <li>2)中間レポート（計2回）の内容（30%）</li> <li>3)期末レポートの内容（40%）</li> </ol>						
成績評価の基準	<p>授業での意見発表、各提出物（レスポンスシート、中間レポート、期末レポート）において、以下の点を重視します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) テーマの内容・背景を的確に把握できていること</li> <li>2) 新たに得た知見や疑問点を整理して提示できていること</li> <li>3) 資料や論拠の提示が適切であること（レポートの場合）</li> <li>4) 従来学説を踏まえ、自分の見解を提示できていること</li> <li>5) 記述や表現の質・量において十分であること</li> <li>6) 1～5)の5項目を十分に満たしていれば「卓越している」、4項目までは「かなり上にある」、3項目までは「やや上にある」、2項目までは「水準にある」、とします。</li> </ol>						
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的な知識を深めるため、紹介された参考書、関連資料（配布資料、eALPS上のデータ）などを授業時間外でも読み込み、整理しておく必要があります。</li> <li>・ 授業内容のセクションごとに課される中間レポート、および期末レポートの準備が授業時間外でも必要です。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席確認システムと併せ、レスポンスシートにより出席を確認します。</li> <li>・ eALPS上での資料公開を事前にアナウンスされた場合は、予習して授業に臨んでください。</li> <li>・ 配布資料（文書）は各自ファイリングし、毎回の授業に持参し適宜メモをとってください。</li> <li>・ 映像資料内の中国語には日本語による説明または字幕が付きません。</li> <li>・ 中国語履修の有無は問いません。</li> </ul>						
質問、相談への対応	<p>授業時間の前後に質問に応じるほか、授業時間外ではメールでの質問、双方型通信による面談に応じます。教員メールアドレス <a href="mailto:daoqi@shinshu-u.ac.jp">daoqi@shinshu-u.ac.jp</a>（メール以外の連絡ツールについては開講時に提示します）</p>						
教科書	指定なし。eALPS上にて文書、資料を公開します。						
参考書	授業内で参考書籍等を適宜紹介します。						

登録コード	J5020300	開講年度	2022	県内大学開放授業				
授業科目	ファイナンス応用			担当教員	都築 幸宏			
英文授業名	Advanced Finance			副担当				
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜, 1時限		対象学年	(20カリ対象科目) 経: 3年
講義室	経法401演習室		授業区分	講義				
<p>(1)授業のねらい            授業で得られる「学位授与の方針」            ・専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、リスク評価、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。            【授業の達成目標】            ・連続時間モデルのもとでオプションの価格式を導出できるようになる。            【授業のねらい】            連続時間モデルのもとでオプションの価格式を導出することを、本講義の目標とする。準備として、ブラウン運動や伊藤の公式などの連続時間確率過程論についてを学習する。次に、株などの価格を表現するブラック・ショールズモデルを学習し、このモデルのもとでのオプション価格を導出する。</p> <p>(2)授業の概要            本講義の目標は、オプション価格のブラック・ショールズ式を導出することである。オプションとは金融派生商品の一つで、ある資産をあらかじめ決められた価格で買う(または売る)権利である。講義の前半ではオプション理論に必要な連続時間確率過程論を学習し、後半ではブラック・ショールズ・モデルの下でオプション価格を導出する。            本授業の履修者は、前期に「ファイナンス理論」「確率過程論」を履修していることが望ましい。            理論の理解には、講義を聞くだけではなく演習問題を解くことが不可欠であるため、レポートや小テストを行う。            担当教員が金融の実務経験を活かして講義を行います。</p> <p>(3)授業計画            第1回 ブラウン運動            第2回 確率積分と伊藤の公式            第3回 確率微分方程式            第4回 コルモゴロフ偏微分方程式            第5回 マルチンゲールの表現定理と測度変換            第6回 小テスト            第7回 連続時間モデル            第8回 ブラックショールズモデル1(ブラックショールズの方法)            第9回 ブラックショールズモデル2(マルチンゲールによる方法)            第10回 小テスト            第11回 デリバティブ実務の実際            第12回 Greeks            第13回 プログラミング実習(Greeks)            第14回 プログラミング実習(ヘッジ誤差のシミュレーション)            第15回 まとめ            最後の授業(15回目)の最後の15分を授業アンケートに回答するための時間とします。</p> <p>(4)成績評価の方法            レポート(30%) + 小テスト(30%) + 期末試験(40%)</p> <p>(5)成績評価の基準            授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」とする。</p> <p>(6)事前事後学習の内容            事前の学習として、教科書や講義資料を読みわからない箇所を明確にしておく。事後学習は、レポートのみならず教科書の演習問題などを解く。前回の授業の内容を理解していないと、次の授業についていけないことが多いので、事後学習を怠らないようにすること。            この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。</p> <p>(7)履修上の注意            「ファイナンス理論」「確率過程論」を履修していることが望ましい。</p> <p>(8)質問、相談への対応            質問や相談は授業中、授業後、オフィスアワー(火曜日13:00-15:00)、またはメール(yukihrotsuzuki@shinshu-u.ac.jp)にて対応する。</p>								
<p>【教科書】            藤田 岳彦(著)「新版 ファイナンスの確率解析入門」講談社</p> <p>【参考書】            ジョン ハル(著)、三菱UFJモルガン・スタンレー証券市場商品本部(翻訳)「フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕 デリバティブ取引とリスク管理の総体系」きんざい</p>								

登録コード	J5130300	開講年度	2022	県内大学開放授業			
授業科目	医療経済学			担当教員	増原 宏明		
英文授業名	Health Economics			副担当			
単位数	4	講義期間	後期	曜日・時限	火曜, 1時限	木曜, 3時限	対象学年 (20カリ対象科目) 経: 3年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」          ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。          ・専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたりリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。  <b>【授業の達成目標】</b>          ・医療制度を経済学的思考に基づき評価し、医療の現代の問題や、医療制度改革の狙いを全員が間違いなく論理的に説明できるようになる。          ・授業で説明した経済分析手法を用いて、全員が間違いなく医療の問題点を指摘できるようになる。          ・データに基づき医療政策を批判できるようになる。          ・医療政策が与えるインセンティブを踏まえ、これを定性的・定量的に評価できるようになる。  <b>【授業のねらい】</b>          社会にとって望ましく適切な医療を提供するためには、適切な医療制度の設計が必要となります。この講義では、現在の医療制度の概要を把握した上で、経済学的視点から現在の制度の問題点を明確にし、医療制度のあり方について検討します。また、現在の医療制度が、医療機関や患者に対してどのようなインセンティブを与え、どのような問題をもたらしつつあるかを、経済理論とデータを用いて分析します。この授業を受けることで、「医療制度」を把握し、患者・医療機関・医療スタッフのインセンティブとその結果を理解し、データによって検証することができるようになります。</p> <p>(2)授業の概要          医療経済学は大きく、制度、経済理論、実証研究の3つから成り立ちます。まず制度で、医療には多くの規制がかかります。これらを整理しながら、医療制度の特徴を把握します。次に、医療制度のもとでのインセンティブ構造が決まりますので、資源配分が歪むかどうか、経済理論によって確かめます。最後に、医療制度の下、経済理論によって説明される行動が実際に起こっているかについては、実際のデータを用いて検証しなければなりません。ミクロ計量経済学的手法を用いて、実証分析で確かめます。</p> <p>(3)授業計画          第1回 医療経済学とは          第2回 国民医療費の動向と地域差          第3回 日本の医療保険制度          第4回 保険の経済学（保険とモラルハザード）          第5回 保険の経済学（最適保険）          第6回 医療サービス需要の経済理論          第7回 医療サービス需要の実証分析          第8回 供給者誘発需要          第9回 供給者誘発需要の実証分析          第10回 混合診療の経済分析、小テスト          第11回 後期高齢者医療制度          第12回 介護保険制度          第13回 終末期医療の経済分析          第14回 医療・介護制度の国際比較（民間保険方式、租税方式）          第15回 医療・介護制度の国際比較（社会保険方式）          第16回 生活習慣と行動変容          第17回 所得分布と健康          第18回 日本の医療提供体制          第19回 診療報酬制度と薬価、小テスト          第20回 医療における計画と規制の経済分析          第21回 医療サービス生産の経済理論          第22回 医療サービス生産の実証分析          第23回 医療の標準化の経済分析          第24回 医療の機能分化の経済分析          第25回 DPC/PDPSの経済分析          第26回 医療技術の進歩の経済分析、小テスト          第27回 医師の労働市場          第28回 コメディカルの労働市場          第29回 医療制度改革          第30回 高齢者医療・介護保険制度改革、授業アンケート          期末試験</p> <p>(4)成績評価の方法  <b>【授業の達成目標】</b>の1番目と2番目の達成度を測るために、基礎的な知識の定着を確認するための論述問題式の小テストを、合計2回行う（各25%×2回=50%）。続いて、<b>【授業の達成目標】</b>のすべての達成度を測るために、論述問題式の期末試験（50%）を行う。</p> <p>(5)成績評価の基準          小テストと同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、難しい応用問題が解ければ「卓越している」</p> <p>(6)事前事後学習の内容          予習・復習用の授業レジュメを、eALPSにPDFファイルとしてアップする。各自で印刷するか、ノートパソコンを持参すること。レジュメは穴埋め式となっているので、予習として1時間かけて穴埋め以外の項目について目を通すこと。講義後は穴埋めされたレジュメを復習し、授業で説明した概念や経済分析手法を自らの手で再度まとめること（2時間程度）。</p> <p>(7)履修上の注意          医療経済学では、ミクロ経済学をベースとした議論を行います。授業で復習をしながら進めますが、「ミクロ経済学」を事前に履修することをお勧めします。また基礎的な計量経済学の知識も必要となりますので、「計量経済学」の履修もお勧めします。</p> <p>(8)質問・相談への対応          個別の質問は、オフィスアワーに研究室に来てください。オフィスアワーが無理な場合には、事前にメール（<a href="mailto:masuhara@shinshu-u.ac.jp">masuhara@shinshu-u.ac.jp</a>）でアポイントメントを取り、来室してください。</p> <p><b>【教科書】</b>          特に指定しない  <b>【参考書】</b>          細谷圭・増原宏明・林行成、医療経済学15講、978-4883842841、新世社、2018年、2,592円。          橋本英樹・泉田信行編、医療経済学講義 補訂版、978-4130421423、東京大学出版会、2016年、3456円（税込）。          井伊雅子・五十嵐中・中村良太、新医療経済学、978-4535559233、日本評論社、2019年、2,530円。          河川洋行、医療の経済学 第4版、978-4535559967、日本評論社、2020年、2750円（税込）。</p>							

登録コード	J5240300	開講年度	2022	県内大学開放授業			
授業科目	開発経済学B			担当教員	ZHAI YALEI		
英文授業名	Development Economics B			副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜, 2時限		対象学年 (20カリ対象科目) 経: 3年
講義室	経法401 演習室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい  授業で得られる「学位授与の方針」  ・経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。  ・専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、リスク評価、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。  【授業の達成目標】  ・本講義は、発展途上国の貧困と開発および国際社会における先進国からのかわり方（開発援助）に関連する諸問題を開発経済学の視点で思考し、「経済発展のための処方箋を提供する」ための経済学知識を身につけることを目標とする。  ・将来大学院への進学意思を持つ学生等のために、より専門性の高い関連科目を受講するための橋渡しとなることも目指す。  【授業のねらい】  発展途上国の経済成長や開発援助を議論する実証的な分析（主に政策評価）を授業内容として取り上げ、開発政策の効果を正確に計測することについて理解を深めることができる。</p> <p>(2)授業の概要  本講義では、「開発経済学A」の学習的成果を踏まえて、最新の実証研究の成果とその実践例（開発援助）を紹介する。  担当教員が国際機関・NGOの実務経験を活かして講義を行います。</p> <p>(3)授業計画  第01回 ガイダンス：授業の進め方  第02回 開発経済学と政策評価  第03回 EPM(EBPM)とは何か  第04回 前半：経済成長と貧困削減  後半：貧困と格差：貧困の原因とは何か  第05回 低開発（貧困）の原因：地理的要因？（資源の呪い）  第06回 低開発（貧困）の原因：歴史的要因？  第07回 低開発（貧困）の原因：制度と開発  第08回 低開発（貧困）の原因：制度と開発  第09回 前半：発表会  後半：「開発経済学A」内容の復習と議論  第10回 低開発（貧困）の原因：ドキュメンタリー映画  第11回 制度と開発：なぜ悪い制度が存続するのか？  第12回 制度の経済学：制度の特徴と改善法  第13回 制度の経済学：制度の特徴と改善法  第14回 貧困の罅と臨界最小努力  第15回 前半：レポートのフィードバック  後半：まとめ</p> <p>(4)成績評価の方法  宿題複数回・レポート一回（50%）+ 期末試験（50%、筆記試験、持ち込み一切不可）</p> <p>(5)成績評価の基準  宿題および期末試験に関しては、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある（可）」、さらに応用問題がほぼ解ければ「やや上にある（良）」、応用問題が完全に解ければ「かなり上にある（優）」、応用問題について優れた解答が書ければ「卓越している（秀）」。  レポート（3000字以上）は1回課し、その配点は成績に反映される。(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v) の 5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある（可）」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容  講義資料はeALPSにアップする。  自主的な事前事後学習を促すため、宿題（複数回）とレポート（一回）を課す。</p> <p>(7)履修上の注意  経済学の基幹科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、統計学など）および【開発経済学A】を履修済み、もしくは履修することが望ましい。</p> <p>(8)質問、相談への対応  授業中、授業前後、またはオフィスアワーの時間帯で対応する。  （上記以外は、あらかじめメールでアポの上、相談に応じる。）</p>							
<p>【教科書】  授業において指示する。</p> <p>【参考書】  授業において指示する。</p>							

登録コード	E2014900	開講年度	2022			
授業科目	古典文学史			担当教員	西 一夫	
英文授業名	History of Classical Japanese Literature			副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・5時限	
講義室	教育N201講義室		授業形態	講義	備考	
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素  <b>【授業の達成目標】</b>  <b>【授業のねらい】</b>          古典文学の作品群を通史的に把握する。個々の作品を分析するのではなく、共時性の文学として種々の作品を取り上げる。その上で古典文学史の今日的意義の理解と、各自の生活環境・思考方法、さらには問題意識が古典文学の延長上に位置付けられるようになる。          古典文学の作品群を通史的に把握するに際して、既成の文学概念にとらわれることなく、芸能・歴史資料などの文化的諸要素を取り込みながら立体的に文学史像を立ち上げる。</p> <p>(2)授業の概要          古典文学の作品群を通史的に把握する。各時代を代表する作品のいくつかの場面を取り上げながら、その変質と特質とをあきらかにする。その上で既成の文学概念にとらわれることなく、芸能・歴史資料などの文化的諸要素をも取り込みながら立体的に文学史像を立ち上げる</p> <p>(3)授業計画          第1回：概説：文学史は描けているのか          第2回：韻文史1：和歌表現の展開（上代から中古）          第3回：韻文史2：和歌表現の展開（中古から中世）          第4回：韻文史3：漢詩表現の展開          第5回：韻文史4：俳諧表現の展開（含む連歌）          第6回：散文史1：書記言語の変遷を概観          第7回：散文史2：上代文学の散文（古事記）          第8回：散文史3：伝奇物語・歌物語の展開          第9回：散文史4：作り物語の展開          第10回：散文史5：軍記物語の展開          第11回：散文史6：随筆の展開          第12回：散文史7：日記の展開（含む紀行文）          第13回：散文史8：仮名草子・読本・滑稽本の展開          第14回：文学史：文学史はどのように描けるのか 授業アンケート          定期試験</p> <p>(4)成績評価の方法          授業内容と関連し、個々の問題意識や論理的思考を確認するための最終課題レポート(60%)、文学史内容を確認する小テスト(40%)によって評価する。          ・得点率による評価基準は次のとおりとする。          90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p> <p>(5)成績評価の基準          秀：授業内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、高度な活動成果を示している。          優：授業内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習・実技課題等に取り組み、良好な活動成果を示している。          良：授業内容のおよそを理解し、講義内容を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題等に誠実に取り組み、授業ねらいで求める活動成果の三分の一程度の達成が認められる。          可：授業内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習・実技課題の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。          不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。</p> <p>(6)事前事後学習の内容          事前学習：取り扱う作品について、使用テキストの当該箇所を事前に読んで内容を把握し、小課題の予習を済ませておく。          事後学習：作品の特質について、紹介した関係文献を読んで、小レポートを作成してe-ALPSに提出する。</p> <p>(7)履修上の注意          授業参加にあたって          複数回的小テストが授業の理解度を測る基礎的な内容である。最終課題レポートでは、授業の内容を振り返るのではなく、取り上げた問題や観点を、各受講生の問題意識と重ね合わせて考察することが求められる。          授業に関する情報はe-ALPSにも随時アップするので、参照のこと。</p> <p>(8)質問、相談への対応及び連絡先          原則的に授業時に直接おこなうことが望ましい。個人的な相談・質問の場合はメールにて。また、オフィスアワーを利用してもよい。対応可能な場合は、その他の時間でも可。          研究室：中校舎4F 408 内線番号：4072 アドレス：nishika@shinshu-u.ac.jp</p>						
<p><b>【教科書】</b>          ビジュアルカラー国語便覧（大修館書店、880円）、プリント資料  <b>【参考文献】</b>          (主要な書籍のみ掲げる)          日本文藝史(小西甚一)講談社          日本文学史の読み 丸谷オー批評集成第一巻 (丸谷オー)文藝春秋社          恋と女の日本文学(丸谷オー)講談社          日本文学史辞典 古典編(三谷栄一・山本健吉編)角川書店          恋の歌、恋の物語 日本古典を読む楽しみ (林望)岩波ジュニア新書          恋する伊勢物語(伊勢万智)ちくま文庫          愛する源氏物語(伊勢万智)文春文庫          西鶴が語る江戸のラブストーリー：恋愛奇譚集(西鶴研究会)ペリかん社          漢字は日本語である(小駒勝美)新潮新書          漢文の素養 誰が日本文化をつくったのか? (加藤徹)光文社新書          漢文脈と近代日本 もう一つのこたばの世界 (齋藤希史)NHKブックス          古文の読解(小西甚一)ちくま学芸文庫          古文研究法(小西甚一)洛陽社</p>						



登録コード	E2365900	開講年度	2022	県内大学開放授業			
授業科目	地史学			担当教員	竹下 欣宏		
英文授業名	Historical Geology			副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・3時限		対象学生
講義室	教育W503講義室		授業形態	講義	備考		
<p>(1)授業のねらい          授業で得られる「学位授与の方針」要素          ・教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能  <b>【授業の達成目標】</b>          ・地質学（地球の歴史）における専門的な知識・技能を備え、それらを応用できるようになる。  <b>【授業のねらい】</b>          現在の地球環境を考えるための基礎知識として、どのように現在の地球が形成されてきたのかを学習する。生物の進化と地殻の形成史とを関連づけて理解し、地圏と生物圏の相互作用を学びきっかけとしてほしい。</p> <p>(2)授業の概要          地球46億年の歴史を概観し、地球環境と生物の変遷に関する基礎知識を習得し、現在の地球環境について自ら考え、理解しようとすることを目標とする。主な内容は以下の通り。          1)地質時代の区分と編年について。2)地球とともに生物がどのように進化してきたのか。3)生物の進化・絶滅と地質現象の関連について。4)1-3を総合して現在の地球環境を考えられるようになる。</p> <p>(3)授業計画          第1回：ガイダンス 地球の歴史を実感してみる          第2回：冥王代 地球の誕生と原始地球          第3回：冥王代 地球の内部構造と月の形成          第4回：太古代 地球最古の記録と地殻の形成          第5回：太古代 生命と化学進化          第6回：太古代 持続的生命の誕生          第7回：原生动 シアノバクテリアの誕生と環境変化          第8回：原生动 スノーボールアースと生命進化          第9回：古生代 (カンブリア紀・オルドビス紀・シルル紀)カンブリアの大爆発          第10回：古生代 (デボン紀・石炭紀・ペルム紀)脊椎動物の上陸と大量絶滅1          第11回：中生代 植物の進化と恐竜の世界(気嚢と横隔膜)          第12回：中生代 大量絶滅2(隕石の衝突)          第13回：新生代 古第三紀の気候変動と哺乳類の躍進(哺乳類の戦略)          第14回：新生代 第四紀の気候変動と人類の進化(授業アンケート(15分程度)含む)          定期試験</p> <p>(4)成績評価の方法          授業前のミニテスト(小テストの回はのぞく)(10%)、授業の理解を測る小テスト(4週に1度程度)(10%)と地学基礎の内容全体の理解を測る期末試験(80%)を通じて理解の程度を評価する。6割以上を合格とする。          ・得点率による評価基準は次のとおりとする。          90%以上 秀,89-80% 優,79-70% 良,69-60% 可,59%以下 不可。</p> <p>(5)成績評価の基準          授業で説明した内容の問題が解ければ「水準にある」、授業内容の応用問題が解ければ「やや上にある」、難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、問題の学術的背景まで説明できていれば「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容          授業内容に関連するミニテスト(10分程度)を授業冒頭に行うので、教科書に関連する部分を予習して授業に望むこと。毎回の授業の中で、前回までに説明した内容を質問形式で問うので、復習をして毎回の授業に臨むこと。また4週に一度、小テストを行うのでしっかりと復習すること。</p> <p>(7)履修上の注意          隔年開講である。前期の「地質学概論」の履修をすませてから受講すると内容の理解が楽である。日頃地球上で生じている地学現象に興味を示しながら学習すること。また、4週に1度程度小テストを行うので、定期試験前だけでなく日ごろからしっかりと復習して知識を身につけること。</p> <p>(8)質問、相談への対応及び連絡先          研究室：W407,日時：月曜 3時限,連絡先 内線：4121 メール：takey@shinshu-u.ac.jp</p>							
<p><b>【教科書】</b>          もついちど読む数研の高校地学  <b>【参考文献】</b>          生物はなぜ誕生したのか：生命の起源と進化の最新科学 ピーター ウォード著、梶山あゆみ訳 河出書房新社(2,420円)          生命誕生 地球史から読み解く新しい生命像 中沢弘基 講談社現代新書(1,012円)          生命と地球の共進化 川上伸一 NHKブックス(1,020円)          地球全史 - 写真が語る46億年の奇跡 - 白尾元理・清川昌一 岩波書店(4,620円)</p>							

発行・編集／信州大学

総合窓口：学務部学務課教務グループ

〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1

TEL 0263-37-2870 FAX 0263-36-3044

URL : <https://www.shinshu-u.ac.jp/general/extension-courses/>

2022年8月発行